

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-207	高等学校	国語科	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修の基本方針

1. 近現代のすぐれた文学的な文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 人間・生命・戦争などに目を向けさせ、それらが我が国の伝統と文化の中でどのように表現されてきたかを知ることができるように配慮した。
5. 歴史的・文化的背景を踏まえて国語文化を捉え、生徒一人一人がその伝統の担い手であることを自覚させることを期した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 I 部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した (第 1 号)。 ・ 詩・短歌・俳句の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した (第 1 号)。 ・ 「作者解説」「文学のしるべ」「小説読解の視点」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書に誘うようにした (第 1 号)。 	<p>p. 14～p. 20 p. 28～p. 41 p. 47～p. 60</p> <p>p. 64～p. 65 p. 66～p. 67 p. 69～p. 70 p. 72～p. 76 p. 78～p. 85</p> <p>p. 46 p. 61 p. 62 p. 68 p. 71 p. 77 p. 103 p. 115 p. 116 p. 175 p. 176 p. 177 p. 231 p. 232</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主・自律、労働などについて考察した題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した (第 2 号)。 ・ 「読み比べ」や「創作」の言語活動を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした (第 2 号)。 	<p>p. 21～p. 26</p> <p>p. 42～p. 45 p. 86～p. 90 p. 117～p. 122 p. 133～p. 137 p. 178～p. 180 p. 189～p. 193 p. 215～p. 230</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者との関わり、社会の有り様などに深く関わる題材を採録し、生徒が人間関係や社会について考えを深め、異なる意見を尊重する態度を身につけられるよう考慮した (第 3 号)。 	<p>p. 92～p. 102 p. 104～p. 114</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命のあり方やその尊さなどについて述べた題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した (第 4 号)。 	<p>p. 72～p. 76 p. 146～p. 174</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 我が国や他国の文化・芸術、文化の伝承などに深く関わる題材を採録し、我が国の伝統と文化に対する理解を深めるとともに、興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。 	p. 78～p. 85 p. 86～p. 90 p. 124～p. 132 p. 133～p. 137 p. 138～p. 144 p. 182～p. 188 p. 189～p. 193 p. 194～p. 200 p. 202～p. 214 p. 215～p. 230
第Ⅱ部	<ul style="list-style-type: none"> 真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。 詩の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した（第1号）。 「作者解説」「文学のしるべ」「小説読解の視点」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書に誘うようにした（第1号）。 	p. 248～p. 257 p. 290～p. 298 p. 258～p. 259 p. 302～p. 308 p. 354～p. 360 p. 411～p. 420 p. 260 p. 273 p. 274 p. 289 p. 299 p. 300 p. 350 p. 351 p. 352 p. 389 p. 410 p. 434 p. 435 p. 449 p. 450 p. 451
	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値や能力、職業について考察した題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第2号）。 「読み比べ」や「創作」の言語活動を通して、主体性を発揮して創造的な課題に取り組めるようにした（第2号）。 	p. 239～p. 246 p. 258～p. 259 p. 452～p. 456
	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わり、多様な価値観などに深く関わる題材を採録し、生徒が自身と異なる意見を尊重する態度を身につけられるよう考慮した（第3号）。 	p. 261～p. 272 p. 276～p. 288 p. 306～p. 308
	<ul style="list-style-type: none"> 生命のあり方やその尊さ、戦争などについて述べた題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が倫理・道徳の問題を現実的に即して考察できるよう配慮した（第4号）。 	p. 310～p. 349 p. 372～p. 388 p. 390～p. 409 p. 411～p. 420 p. 422～p. 433 p. 436～p. 448
	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化に深く関わる題材を採録し、外国との関係や歴史的背景などを踏まえて、我が国の言語文化に対する理解を深められるようにした（第5号）。 現代の戦争を扱った題材を採録して、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮した。（第5号） 	p. 234～p. 238 p. 436～p. 448 p. 452～p. 456 p. 361～p. 370 p. 372～p. 388 p. 418～p. 420
	資料編・巻末口絵	<ul style="list-style-type: none"> 「近現代文学史の概観」「学校系統図」「参考図録」を用意し、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、我が国や他国の言語文化に対する興味・関心を喚起できるように配慮した（第1号・第5号）。

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材の最後に「学習の手引き」「言語活動の手引き」「言葉の手引き」といった課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- 書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-207	高等学校	国語科	文学国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・「現代の国語」および「言語文化」で育成された資質・能力をさらに推し進め、深く共感したり豊かに想像したりする力や、創造的に考える力を伸ばすために、書いたり読んだりする資質・能力を伸ばすための学びと、我が国の言語文化に対する理解を深めるための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるよう考慮して、全体を二部で構成し、各部分は文種（ジャンル）を基本にした単元構成とした。
- ・「B 読むこと」の教材として、近代以降の小説、詩歌、随想、評論を取り上げた。また、「A 書くこと」の教材として、「創作」に特化した教材を用意した。
- ・教材の選定にあたっては、生徒の発達段階に配慮して、高校生として知っておくべき評価の定まった作品から厳選することを旨とした。
- ・単元の扉に、それぞれの教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・作品の中で押さえておくべき熟語、慣用句、四字熟語等を「注意すべき語句」として脚注の左に示し、必要な語句を効果的に学習できるよう配慮した。
- ・「言葉の手引き」を設定して、「B 読むこと」の内容と関連づけながら、漢字・語句・表現・修辞等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・作品ごとに「作者解説」を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図るとともに、小説に関しては「文学のしるべ」を設け、読書の幅を広げることができるように意図した。
- ・小説単元に「小説読解の視点」、すべての詩の後に「コラム」を用意し、小説や詩に対する理解が深められるようにした。
- ・巻末に「資料編」「参考図録」を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。

③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 書くこと」に関しては、言語活動として「創作」に特化した教材を用意し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、文学的な文章や独創的な文章を書く能力を育成することを旨とした。
- ・「B 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「言語活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
 - ※「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所、内容理解を確認する目的で示した。
 - ※「学習の手引き」は、文章全体の構成や展開の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈、文体の特徴や表現技法の理解という、基本的に三つの事柄を行うことを主旨として設定した。
 - ※「言語活動の手引き」は、本文を学習した後に得た、自分の解釈や見解をもとにして、文章を書いたり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる言語活動を行うことを主旨として設定した。
- ・「言語活動の手引き」とは別に、「B 読むこと」の言語活動として、教材と関連する別の文章を取り上げてさまざまな観点から比較を行う、「読み比べ」教材を用意した。

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容						該当箇所	配当時数		
			知識及び技能		思考力・表現力・判断力等					書くこと	読むこと	計
部	単元	教材	(1)	(2)	書くこと(1)	書くこと(2)	読むこと(1)	読むこと(2)				
第Ⅰ部	1 随想・評論(一) なぜ書くのか	生きるとは、自分の物語をつくること	イ・ウ・エ	イ	イ		ア・カ	ア	p.14-p.20	1	2	3
		わからないからおもしろい	イ・ウ・エ		イ		ア・エ・カ	ア	p.21-p.26	1	2	3
	2 小説(一)	山月記	イ・ウ・エ	ア	ア・イ・ウ	イ	ア・イ・ウ・オ・カ	ア・ウ	p.28-p.41	1	3	4
		[読み比べ]人虎伝					ア・イ・ウ・オ	ア	p.42-p.45		1	1
		[文学のしるべ]		イ					p.46			
		旅する本	イ・ウ・エ	ア	ア・イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.47-p.60	1	3	4
		[文学のしるべ]		イ					p.61			
	3 詩・短歌・俳句	[小説読解の視点①]	ウ						p.62			
		詩歌を豊かに鑑賞するために	ウ						p.64-p.65			
		小諸なる古城のほとり	ウ・エ	ア・イ			ア・イ・エ・カ	ア	p.66-p.68		1	1
		風船乗りの夢	ウ・エ	ア・イ			ア・イ・エ・カ	ア	p.69-p.71		1	1
		永訣の朝	ウ・エ	ア・イ			ア・イ・エ・カ	ア	p.72-p.77		2	2
		短歌と俳句	ウ・エ	ア			ア・イ・オ・カ・キ	オ	p.78-p.85		2	2
	4 小説(二)	[創作]テーマを決めて短歌・俳句を作る	ア・エ		ア・イ・ウ・エ	ア・エ		オ	p.86-p.90	3		3
		孫係	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・カ	ア	p.92-p.102	1	3	4
		[文学のしるべ]		イ					p.103			
		山椒魚	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.104-p.114	1	3	4
		[文学のしるべ]		イ					p.115			
		[小説読解の視点②]	ウ						p.116			
	5 評論・随想(二) 芸術との出会い	[創作]物語を創造する 物語を発現する力			ア・イ・ウ・エ	ア			p.117-p.122	2		2
真珠の耳飾りの少女		イ・ウ・エ		イ		ア・イ・エ・カ・キ	ア	p.124-p.132	1	2	3	
[読み比べ]フェルメールの技を読む				イ		ア・カ・キ	ア・イ・カ	p.133-p.137	1	1	2	
6 小説(三)	花のいざない	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・オ・カ	ア	p.138-p.144	1	2	3	
	こころ	イ・ウ・エ	ア	ア・イ・エ	ア・イ	ア・イ・オ・カ	ア・ウ	p.146-p.175	1	7	8	
	[文学のしるべ]		イ					p.176				
	[小説読解の視点③]	ウ						p.177				
7 随想・評論(三) 日本文化の特徴	[創作]小説の一場面を脚本化する	ア・エ		ア・イ・ウ・エ	ア・イ		ウ	p.178-p.180	2		2	
	陰影という名の自由	イ・ウ・エ	ア			ア・ウ・オ・カ	ア	p.182-p.188		2	2	
	[読み比べ]陰翳礼讃	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・ウ・オ・カ	ア・イ	p.189-p.193	1	2	3	
8 小説(四)	句を切る	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア・イ	p.194-p.200	1	2	3	
	富嶽百景	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・ウ・オ・カ	ア・カ	p.202-p.214	1	3	4	
	[読み比べ]富嶽百景	イ・ウ・エ	ア			ア・イ・ウ・エ・オ・カ	ア	p.215-p.230		3	3	
	[文学のしるべ]		イ					p.231				
第Ⅱ部	1 随想・評論(一) 日本語へのまなざし	[小説読解の視点④]	ウ						p.232			
		ゆずる物腰ものほしげ	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・カ	ア	p.234-p.238	1	2	3
		日本語籍を取得した日	イ・ウ・エ	ア	イ・エ		ア・イ・カ	ア・カ	p.239-p.246	1	2	3
		檸檬	イ・ウ・エ	ア			ア・イ・ウ・エ・オ・カ	ア	p.248-p.257		3	3
	2 小説(一)	[読み比べ]秘やかな楽しみ		ア	イ		ア・ウ・オ	ア	p.258-p.259	1	1	2
		[文学のしるべ]		イ					p.260			
		冷たい大根の煮物	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.261-p.272	1	3	4
		[文学のしるべ]		イ					p.273			
		[小説読解の視点⑤]	ウ						p.274			
	3 小説(二)	骰子の七の目	イ・ウ・エ	ア	ア・イ・エ	ア・イ	ア・イ・エ・カ	ア・ウ	p.276-p.288	1	4	5
		[文学のしるべ]		イ					p.289			
		棒	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.290-p.298	1	4	5
		[文学のしるべ]		イ					p.299			
	4 詩	[小説読解の視点⑥]	ウ						p.300			
		のちのおもひに	ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.302-p.303	1	1	2
		足と心	ウ・エ	ア			ア・イ・エ・カ	ア	p.304-p.305		1	1
	5 小説(三)	ちがう人間ですよ	ウ・エ	ア			ア・イ・エ・カ	ア	p.306-p.308		1	1
		舞姫	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・オ・カ	ア・カ	p.310-p.350	1	8	9
		[文学のしるべ]		イ					p.351			
	6 随想・評論(二) 文学はなぜ必要か	[小説読解の視点⑦]	ウ						p.352			
もしも、詩があったら		イ・ウ・エ	ア	イ・ウ		ア・イ・カ	ア	p.354-p.360	1	2	3	
7 戦争と文学	祈りとしての文学	イ・ウ・エ	イ			ア・オ・カ	ア・カ	p.361-p.370		3	3	
	バグダッドの靴磨き	イ・ウ・エ	ア	ア・イ・エ	ア・イ	ア・イ・オ・カ・キ	ア・ウ	p.372-p.388	1	4	5	
	[文学のしるべ]		イ					p.389				
	夏の花	イ・ウ・エ	ア			ア・イ・オ・カ・キ	ア	p.390-p.409		5	5	
	[文学のしるべ]		イ					p.410				
	死んだ男の残したものは	ウ・エ	ア			ア・イ・エ・オ・カ・キ	ア	p.411-p.413		1	1	
	わたしが一番きれいだったとき	ウ・エ	ア			ア・イ・エ・オ・カ・キ	ア	p.414-p.417		1	1	
	春ーイラクの少女シャミラに	ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・オ・カ・キ	ア	p.418-p.420	1	1	2	
8 小説(四)	葉桜と魔笛	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア	p.422-p.434	1	4	5	
	[文学のしるべ]		イ					p.435				
	枯野抄	イ・ウ・エ	ア	イ		ア・イ・エ・カ	ア・カ	p.436-p.449	1	5	6	
	[文学のしるべ]		イ					p.450				
	[小説読解の視点⑧]	ウ						p.451				
[創作]古典を基にして物語を作る			ア・イ・ウ・エ	ア・ウ			p.452-p.456	4		4		
										37	103	140

快	儁	炯	峭	臥	號	賤	恃	狷	榜	穎	李	隴	敦	挽	櫛	茗	汲	些	坦	霞	鞭	惟	煽	蝶	胡	芥	怯	禿	翔	鎧	沌	隼	媚	漢字		
29	29	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	25	25	25	24	24	24	23	22	22	21	21	21	19	19	18	16	16	15	15	14	ハ°-ジ°		
慙	悶	碌	伍	琢	磋	倨	嗥	嘯	此	軺	已	茅	蓬	仍	嗤	叢	誦	茁	嘉	赧	愧	厭	闊	峻	懼	浙	淮	於	嶺	慘	袁	汝	悖	漢字		
36	36	36	36	36	36	36	35	35	35	35	35	35	35	35	35	33	32	32	31	31	31	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	ハ°-ジ°	
鳩	翠	翡	蟬	杏	顛	餐	綴	搔	陀	埃	訊	輯	鳶	昌	譚	寓	笠	蒼	冉	餞	楚	楊	丞	亮	喘	哭	慟	哮	咆	吼	巖	灼	恚	漢字		
64	61	61	60	60	58	55	54	53	50	50	47	46	46	46	46	46	45	45	43	42	42	42	42	40	39	39	38	38	38	38	38	38	36	ハ°-ジ°		
蜚	稗	喀	薩	菩	勒	兜	崗	雫	蒼	椀	蓴	訣	鼠	俱	犀	欒	吠	斯	朔	萩	駿	寥	羈	姪	抒	箠	阜	衾	藉	萌	蕪	繫	諷	漢字		
78	77	77	75	75	75	75	74	74	73	72	72	72	71	71	71	71	71	70	69	69	68	68	68	68	68	68	67	66	66	66	66	66	66	65	ハ°-ジ°	
蔭	柝	桐	蓼	萄	葡	鷹	啄	嚙	碗	智	鳳	篠	葵	槍	櫨	昏	濡	駟	邨	楸	稔	筏	頸	禎	壺	宏	曳	欣	彥	撒	顫	鼎	阿	漢字		
84	84	84	82	82	82	82	82	82	82	82	81	81	81	81	81	81	81	81	80	80	80	80	80	80	80	80	80	79	79	79	79	79	79	78	78	ハ°-ジ°
讚	吾	噓	洒	爺	粥	柑	燧	炬	鯛	蛤	蜻	曼	鰯	檣	蒲	菖	蝸	蛙	幟	鯉	燕	隴	雛	臺	蒨	紗	拗	撥	鴉	驢	谿	栲	獅	漢字		
103	101	97	97	96	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	89	86	86	85	85	85	84	84	ハ°-ジ°	
漱	之	鍊	樞	愕	佇	厨	炒	餃	疇	浩	孟	于	尊	窪	荻	鷗	遙	撻	牢	錫	癩	瘋	棍	遁	囊	淀	黴	憐	苔	猥	狼	鱒	椒	漢字		
146	141	141	138	133	127	120	120	120	117	115	115	115	115	115	115	115	113	113	110	109	109	109	108	106	105	105	105	105	104	104	104	104	104	104	104	ハ°-ジ°
燭	箔	聘	欽	趨	迄	函	竟	畢	寔	懺	狷	狡	曠	摺	隈	懊	熾	套	梢	讐	徨	彷彿	淵	崇	嚼	咀	襖	蓮	湊	庇	糊	乃	漢字			
183	183	182	176	176	175	173	172	172	172	172	168	168	166	165	165	161	159	158	158	155	155	155	154	154	152	151	151	151	147	147	147	147	147	146	ハ°-ジ°	
晁	兔	皴	睨	芦	伊	鷲	鯨	稀	稜	尖	弘	冴	蓑	笈	桶	蕪	蕉	芭	廁	耽	豎	伽	瀘	框	焉	忽	劫	朦	湛	倖	僥	翳	蠟	漢字		
215	214	212	210	209	208	204	203	203	203	203	202	198	197	197	197	194	194	194	192	192	191	191	191	190	190	190	189	189	185	184	184	183	183	ハ°-ジ°		
贅	蘇	縞	蝕	梔	檬	檸	也	撫	脆	蛛	蜘蛛	晒	乖	揃	溢	嘶	蕭	呆	悉	杵	雁	峙	瞥	瞰	屁	蔦	這	隧	斐	烏	屏	凱	奢	漢字		
250	250	249	248	248	248	246	245	244	244	244	244	244	241	232	231	228	225	225	223	223	222	222	220	219	218	218	217	217	217	216	216	216	215	ハ°-ジ°		
鏞	頷	噌	屍	堯	逢	筧	逗	嬉	蠅	痾	塵	袂	橙	諺	烟	劉	顛	弛	恰	錘	鎰	螺	爛	絢	驟	廂	賑	姑	鱈	蝦	鹵	珀	琥	漢字		
271	264	261	260	260	260	260	258	256	256	256	255	255	254	253	253	253	253	253	252	252	252	252	252	252	252	252	252	251	251	250	250	250	ハ°-ジ°			
睫	洛	羲	儲	廻	瀝	巴	鬢	銷	瑞	恙	牌	篇	辰	萱	翅	辻	饅	贗	瓜	垢	皓	咎	歪	猜	叡	囁	槌	捲	雀	斧	樵	骰	甦	漢字		
314	313	313	313	313	313	313	312	312	311	311	310	303	303	303	302	300	300	299	294	293	286	286	283	283	281	281	280	280	276	276	276	276	273	ハ°-ジ°		
愨	茫	媪	獻	欵	潤	憫	洩	吞	惚	恍	梯	髭	裨	襦	巷	僑	苑	艱	冤	日	或	愷	晋	珙	珈	赫	誣	讒	蔗	瑣	筵	蘭	魯	漢字		
323	323	322	322	322	322	321	321	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	319	319	319	319	319	319	319	318	318	318	317	316	316	316	ハ°-ジ°	

常用漢字以外の使用漢字一覧表

驕 繞 嗟 咄 粟 玻 舵 朋 瀾 諫 軻 轆 蹶 踞 吻 庖 坳 坎 鍤 蒔 殂 盞 臂 鬢 憚 駮 坐 兀 氈 梁 煉 廚 詫 懃	漢字
338 338 337 337 336 336 336 336 335 335 335 335 334 334 334 332 331 331 331 331 330 329 329 328 325 325 325 325 323 323 323 323 323 323	ハ°-ジ°
匍 灌 藪 蝟 楓 闖 濛 饒 迥 繫 紐 礫 揉 癩 壕 佛 瀕 侈 嘔 躡 躡 倦 惹 妾 蒙 鷺 榻 裱 襪 籬 徊 馭 云 鏤	漢字
396 394 394 394 393 391 391 390 389 384 384 379 375 374 373 367 365 365 362 359 359 355 352 351 351 345 344 343 343 343 342 342 341 339	ハ°-ジ°
炷 庵 簾 夙 屑 祿 咏 寵 擲 柴 栗 捧 墟 蛆 楠 攀 瘞 袴 甥 幡 廿 唳 嚙 燠 貫 轟 餉 漕 愍 杜 膿 啞 閃 沛	漢字
437 436 436 436 436 436 436 429 419 418 415 415 408 406 406 406 406 405 405 404 404 404 404 404 402 401 400 399 399 398 398 397 396 396	ハ°-ジ°
逡 跂 踏 槃 涅 毫 鬚 褪 徘 悸 惻 洩 鳴 愴 哄 槐 綜 掣 扞 扞 軀 脣 顛 痰 擾 愎 頤 迦 烙 焙 藁 紬 其 堰	漢字
446 446 446 446 446 446 446 446 445 445 443 443 443 442 442 441 441 441 441 441 440 438 438 438 438 438 438 437 437 437 437 437 437 437	ハ°-ジ°
芙 俘 婉 圃 昶 葦 氓 洲 蟹 牽 蹟 樺 哉 鞞 檣 蘆 富 叉 槌 萊 遙 迨 硯 曙 囊 淋 埒 仇 侏 游 續 溘 梏 桎	漢字
462 462 461 460 460 460 460 460 460 458 458 458 458 458 458 458 458 458 458 458 458 458 458 458 458 450 450 450 450 450 449 447 447 446 446	ハ°-ジ°
	耶 佑 灘 牟 莉 茱
	漢字
	462 462 462 462 462 462
	ハ°-ジ°

常用漢字以外の使用漢字一覧表

音訓一覧表

良嗣	屯する	術	煙草	止まなかった	奥付	安部	仏陀	心許なく	光代	性	小笠原	棺	墮す	惧れる	珠	但	夕	為りて	敢へて	誰	爪牙	不可	偶	哀しく	還つて	充ち	故人	豊頬	遺そう	占	榊挽道守	青嵐	証	違わず	苛立った	零士	易き	赤提灯	見巧者	昇	母娘	身体	河合
よしつぐ	たむろする	すべ	たばこ	やまなかつた	おくづけ	あべ	ぶつだ	こころもとなく	みつよ	さが	おがさわら	ひつぎ	おとす	おそれる	たま	ただ	ゆふべ	なりて	あへて	たれ	さうが	べからず	たまたま	かなしく	かえつて	みち	とも	ほうきよう	のこそう	うら	くしひきちもり	せいらん	あかし	たがわず	いらだつた	れいじ	やすき	あかちようちん	みごうしゃ	のぼり	ははこ	からだ	かわい
61	61	58	57	55	53	52	50	50	47	46	46	45	39	36	36	35	35	35	35	35	35	35	33	32	31	30	28	28	25	25	25	25	24	24	23	22	22	22	21	18	15	15	
富小路	和弘	春昼	枯野	外れ	土堤	身振ひ	皆吉司	今宵	泰世	貫かれし	修二	宙	揚羽	正男	確め	姫蜆蝶	稗貫	盛岡	政次郎	弥勒菩薩	資糧	聖い	変つて	御影石	倶楽部	室生	朱欒	瓦斯体	幻覚	空しく	萩原	捨吉	外山正一	春樹	信濃	千曲	霞みて	香	小諸	藤原定家	立原	貴方	薫
とみのこうじ	かずひろ	しゆんちう	かれの	それ	どて	みぶるひ	みなよしつかさ	こよひ	やすよ	ぬかれし	しゆうじ	そら	あげは	まさお	たしかめ	ひめしじみ	ひえぬき	もりおか	まさじろう	みろくぼさつ	かて	きよい	かはつて	みかげいし	くらぶ	むろう	ザムボア	がすたい	まぼろし	むなしく	はぎわら	すてきち	とやままさかず	はるき	しなの	ちくま	かすみて	かをり	こもろ	ふじわらのていか	たちはら	あなた	かおる
80	80	80	79	79	79	79	79	79	78	78	78	78	78	78	78	77	77	77	75	75	75	75	74	71	71	71	70	69	69	69	68	68	68	67	67	66	66	66	65	65	65	61	
井伏鱒二	歩	洒落	経つて	蜜柑	鯛焼	銀杏	秋麗	曼珠沙華	野分	時雨	甲虫	盛	木立	桜桃	蝸牛	五月	春愁	温む	士筆	雛祭	三十一文字	福建省	右左口	赤光	草田男	如く	葡萄	花曇	公彦	万智	食む	向日葵	能村	長谷川	黄昏れ	邦雄	奔る	登志夫	過客	百代	飯田	稔典	眼
いぶせますじ	あゆむ	しやれ	たつて	みかん	たいやき	いちよう	あきうらら	まんじゆしやげ	のわき	しぐれ	かぶとむし	さかり	こだち	さくらんぼ	かたつむり	さつき	はるうれい	ぬるむ	つくし	ひなまつり	みそひともし	ふつけんしょう	うぼぐち	しやつこう	くさたお	ごとく	ぶだう	はなぐもり	きみひこ	まち	はむ	ひまはり	のむら	はせがわ	たそがれ	くにお	はしる	としお	くわかく	はくたい	いいた	としのり	め
104	103	97	93	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	90	86	85	85	84	82	82	82	82	82	82	82	81	81	81	81	81	81	81	80	80	80	80	80	

音訓一覧表

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
先途	せんど	104	京狩野派	きょうかのうは	183	市	まち	276
懐手	ふところ	109	愛でた	めでた	184	蚊帳	かや	276
満寿二	ますじ	113	現	うつつ	185	硝子	がらす	273
太宰治	だざいおさむ	115	信子	のぶこ	186	南京玉	なんきんだま	265
健	たけし	115	凹んだ	くぼんだ	189	切り	きりこ	264
厄除け	やくよけ	115	失せて	うせて	191	煙管	きせる	263
閑間重松	しづましげまつ	115	縦繁	たてしげ	191	石鱈	せつけん	260
括られた	くくられた	116	細雪	ささめゆき	193	乾蝦	ほしえび	260
雅彦	まさひこ	117	与謝	よさ	194	快速調	アツレグロ	260
餃子	ぎょうざ	120	新花摘	しんはなつみ	194	人参葉	にんじんば	260
観て	みて	126	先達	せんだつ	195	慈姑	くわい	260
留まつた	とどまつた	126	向井	むかい	195	店頭	みせさき	251
微笑んで	ほほえんで	127	彼方	かなた	197	点けられた	つけられた	251
一途	いちず	127	灰汁	あく	197	果物	くだもの	252
享けた	うけた	128	弘前	ひろさき	202	浸み透つて	しみとおつて	252
灯した	ともした	131	昌夫	まさお	202	撲つ	うつ	253
朽木	くちき	133	八甲田山	はつこうださん	202	明	みん	253
寿夫	ひさお	138	象つた	かたどつた	203	剖くに	さくに	253
世阿弥	ぜあみ	140	山車灯籠	だしとうろう	203	画本	えほん	254
発頭	はつげん	140	亡びる	ほろびる	206	憶い出した	おもいだした	255
当レ感	かんにあたる	141	葛飾	かつしか	207	潰し	くずし	255
鉢木	はちのき	141	掌	てのひら	209	跳り上がる	おどりあがる	255
雑司ヶ谷	ぞうしがや	146	広重	ひろしげ	215	木端微塵	こつばみじん	256
従妹	いとこ	147	華奢	きやしや	215	秘やかな	ひそやかな	258
伝通院	でんずういん	147	うきよえ	うきよえ	215	遊ぶ	もてあそぶ	258
市ヶ谷	いちがや	148	屏風	びょうぶ	216	手拭	タオル	258
咽喉笛	のどぶえ	157	甲斐	かい	217	離りて	さかりて	258
昨夕	ゆうべ	160	地下足袋	じかたび	218	唯	ただ	258
捕まえた	つらまえた	161	お家	おうち	219	浮ぶ	うかぶ	258
疑ぐり	うたぐり	161	美知子	みちこ	219	冷さ	つめたさ	259
神保町	じんぼうちょう	165	長押	ながし	221	奇しき	くしき	259
懺悔	ざんげ	172	布袋	ほてい	225	企らみて	たくらみて	259
牛込	うしごめ	175	薪	まき	226	三好	みよし	260
吾輩	わがはい	175	吉田	よしだ	227	老舗	しにせ	260
坊っちゃん	ぼつちゃん	175	破壊と建築	ストラップ・アンド・ビルド	231	踊子	おどりこ	260
虞美人草	ぐびじんそう	175	琴峰	ことみ	239	康成	やすなり	260
彼岸過迄	ひがんすぎまで	175	獨舞	ドゥーユー	239	樹	き	260
頻り	しきり	176	又柔	ゆうじゆう	239	和郎	かずお	260
御前	おまえ	176	彰良	あきら	239	剥いたり	むいたり	263
宗近一	むねちかはじめ	176	台詞	せりふ	243	密かに	ひそかに	264
お延	おのぶ	176	圧えつけて	おさえつけて	248	鶏肉	とりにく	265
米原万里	よねはらまり	177	宿酔	ふつかよい	248	相容れない	あいれない	265
枯山水	かれさんすい	182	壊れ	くずれ	248	骸子	さいころ	265
塔頭	たつちゆう	182	路	みち	249	渋谷	しぶや	276

音訓一覧表

三年	某	歳	首	太田豊太郎	荒み	訓へ	概略	房奴	彫りつけ	腸	伊太利	瑞西	房	出でて	東	独逸	日記	尋常	来し	平生	五年	骨牌	卓	泉	判れば	荒地	雅夫	夕	脇侍	月光	陽	水引草	束の間	標べ	終り	誘つていく	小夜子	斉藤	曾じいさん	禍々しい	山手線	妹尾	忠津
みとせ	なにがし	とし	はじめ	おほたとよたらう	すさみ	をしへ	あらまし	ぼうど	ゑりつけ	はらわた	イタリア	スイス	へや	いでて	ひんがし	ドイツ	にき	よのつね	こし	ひごろ	いつとせ	カルタ	つくゑ	フアンタン	わかれば	あれち	まさお	ゆうべ	きようじ	がつこう	ひ	みずひきさう	つかのま	しるべ	おわり	いざなつていく	さよこ	さいとう	ひいじいさん	まがまがしい	やまのてせん	せのお	ただつ
312	312	312	312	312	312	312	312	312	312	312	311	311	311	311	311	310	310	310	310	310	310	310	310	308	308	305	304	303	302	302	302	302	299	297	297	289	287	286	280	279	277	277	277
誰ぞ	老嫗	項	貯へ	外人	目	巾	鍛冶	楼	翁	猶太	木欄	巷	灯火	獣苑	閑し	漸く	自り	毎に	女	珈琲店	衣	手巾	触れば	合歓	嫉み	棒	麦酒	伯林	書	講筵	法家	仏蘭西	普魯西	公	鈴索	凱旋塔	土瀝青	粧ひ	少女	維廉	隊々	菩提樹下	欧羅巴
たぞ	おうな	うなじ	たくはへ	よそびと	まみ	きれ	かぢ	たかどの	おきな	ユダヤ	おぼしま	こうぢ	ともしび	じうゑん	けみし	やうやく	より	ごとに	をみな	カツフエエ	きぬ	しゆきん	さやれば	ねむ	ねたみ	キユウ	ビール	ベルリン	ふみ	かうえん	はふか	フランス	プロシア	おほやけ	すずなは	がいせんたふ	アスファルト	よそほひ	をとめ	ウイルヘルム	くみぐみ	ぼだいじゆか	ヨオロツパ
322	322	322	322	321	321	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	319	319	319	319	319	319	319	318	318	318	318	318	318	317	316	316	316	316	316	316	314	313	313	313	313	313	313	313
外套	幾年	容	上襦袴	起ち	疾く	昨夜	悪阻	朝	若く	詳か	仏得力	活発々	軽き	往来	幾種	商人	食店	午餐	相沢	数奇	秋	誤字	墮ちぬ	白粉	終日	背	辞別	食はず	二年	室	潮したり	微紅	羞	価	陶瓶	臥床	煉瓦	左手	右手	油燈	印せし	額	悪しき
ぐわいたう	いくとせ	かたち	うはじゆばん	たち	とく	よべ	つはり	あした	しく	つまびらか	フレデリック	くわつはつはつ	かろき	ゆきき	いくいろ	あきうど	たべものみせ	ひるげ	あひざは	さくき	とき	あやまりじ	おちぬ	おしろい	ひねもす	そびら	わかれ	くらはず	ふたとせ	へや	さしたり	うすくれなゐ	はち	あたひ	たうへい	ふしど	れんぐわ	ゆんで	めて	ランプ	しるせし	ぬか	あしき
333	333	333	333	333	332	332	332	331	330	330	330	330	329	329	329	329	328	328	328	328	328	327	327	326	325	325	325	324	324	324	324	324	324	324	324	323	323	323	323	322	322	322	322

音訓一覧表

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
門者	かどもり	334	太古	いにしえ	369	伴	とも	437
階	きざはし	334	貯め	ため	372	治郎兵衛	じろうべえ	437
廊	わたどの	334	お祖母ちゃん	おばあちゃん	373	珠数	じゆず	437
旧	もと	334	神様	アツラー	374	反故文	ほごぶみ	437
生活	なりはひ	335	義姉さん	ねえさん	375	望月	もちづき	437
朋友	ほういう	336	邸	やしき	379	釈迦	しゃか	437
二重	ふたへ	336	堪えて	こらえて	381	乙州	おとくに	437
玻璃	がらす	336	醜女	ブス	387	古法衣	ふるころも	438
膚	はだへ	336	希有	けう	389	痘痕	いも	438
明旦	あす	337	初盆	にいぼん	390	山家	やまが	438
魯西亜	ロシア	337	射してくる	さしてくる	391	弥陀	みだ	438
虚	うつろ	337	栄橋	さかえばし	394	各務	かがみ	439
任務	つとめ	338	削ぎ	そぎ	394	正秀	まさひで	439
拉し	らつし	338	安芸	あき	394	一刷毛	ひとはけ	440
黄蠟	わうらふ	338	縮景園	しゅつけいえん	394	日向	ひなた	440
点したる	ともしたる	338	慄え	ふるえ	398	伏見	ふしみ	440
彫鏤	てうる	339	光ちゃん	みつちゃん	401	行灯	あんどん	441
寝ねつ	いねつ	339	常盤橋	ときわばし	402	釈いて	といて	441
生計	たつき	339	住吉橋	すみよしばし	405	掣肘	せいちゆう	441
略	あらまし	339	河岸	かし	408	孔	あな	442
底	そこひ	340	井上光晴	いのうえみつはる	410	嗚咽	おえつ	443
族	やから	340	茨木	いばらぎ	414	差し支えない	さしつかえない	444
他人	ひと	341	人達	ひとたち	414	好い	よい	444
旦	あした	342	落して	おとして	41	首	こうべ	445
指して	ゆびさして	343	贈物	おくりもの	415	凍てついて	いてついて	446
頭	かうべ	343	眼差	まなざし	415	暗	やみ	446
訪はず	とぶらはず	343	発つて	たつて	415	属續	しよつこう	447
衝いて	ついて	344	凄く	すごく	416	戯作	げさく	447
埋もれ	うづもれ	345	洋	ひろし	417	柳川	やながわ	449
数週	すしう	346	陽射し	ひざし	418	手巾	ハンケチ	449
赤児	あかご	347	氣質	かたぎ	422	久米	くめ	449
癡狂	てんきやう	348	織田	おだ	434	切支丹	クリシタン	449
千行	ちすぢ	348	大庭	おおば	435	保吉	やすきち	449
議りて	はかりて	348	龍之介	りゆうのすけ	434	上海	シャンハイ	449
阿部	あべ	350	時雨れる	しぐれる	436	河童	かつぱ	449
於母影	おもかげ	350	商人	あきんど	436	玄鶴	げんかく	449
希典	まれすけ	350	光沢	つや	436	大石内蔵助	おおいしくらのすけ	450
興津弥五右衛門	おきつやごえもん	350	暖簾	のれん	436	赤穂浪士	あこうろうし	450
巨勢	こせ	351	三味線	さみせん	436	真似事	まねごと	450
弥一右衛門	やいちえもん	351	御堂前	みどうまえ	436	従兄	いとこ	450
詞華集	アンソロジー	355	仁左衛門	にざえもん	436	真砂	まさご	450
目論み	もくろみ	355	埋火	うづみび	436	武弘	たけひろ	450
囚われ	とらわれ	362	申	さる	436	伊勢物語	いせものがたり	452
傍目	はため	368	枕頭	ちんとう	437	妹	いも	452

出 典 一 覧 表

〔国語教材〕

申請図書			出 典					備考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
14～19	生きるとは、自分の物語をつくること	国語教材	生きるとは、自分の物語をつくること (12刷)	124～131	小川洋子他	新潮社	2023年	
21～25	わからないからおもしろい	国語教材	ベスト・エッセイ 2014(第1刷)	198～202	木内昇他	光村図書出版	2014年	
28～40	山月記	国語教材	中島敦全集 第一巻(初版第15刷)	153～160	中島敦	筑摩書房	1987年	
47～59	旅する本	国語教材	さがしもの (第1刷)	11～24	角田光代	新潮社	2008年	
66～67	小諸なる古城のほとり	国語教材	藤村全集 第一巻 (第1刷)	237	島崎藤村	筑摩書房	1966年	
69～70	風船乗りの夢	国語教材	萩原朔太郎全集 第二巻 (補訂版1刷)	190～191	萩原朔太郎	筑摩書房	1986年	
72～75	永訣の朝	国語教材	新修宮沢賢治全集 第二巻(初版第1刷)	164～167	宮沢賢治	筑摩書房	1979年	
78	姫蜆蝶の	国語教材	雪に紛れず (第3刷)	88	真鍋正男	短歌新聞社	1986年	
78	幾十の	国語教材	島田修二歌集 (初版第3刷)	111	島田修二	国文社	1987年	
78	春潮の	国語教材	現代短歌全集 (五) (第1刷)	123	坪野哲久他	創元社	1952年	
78	生きながら	国語教材	原阿佐緒全歌集 (第1刷)	24	原阿佐緒	至芸出版社	1978年	
78	恋文を	国語教材	世紀末の小町 (第1刷)	100	大西泰世	砂子屋書房	1989年	
78	ひかり野へ	国語教材	君なら蝶に (第1刷)	159	折笠美秋	立風書房	1986年	
78	高々と	国語教材	花影 (第1刷)	13	原石鼎	改造社	1937年	
79	蝶々の	国語教材	定本 高浜虚子全集 第一巻 (第1刷)	166	高浜虚子	毎日新聞社	1974年	
79	日のくれに	国語教材	大西民子全歌集 (第1刷)	266	大西民子	沖積舎	1981年	
79	白き犬	国語教材	白秋全集 6 (第1刷)	16	北原白秋	岩波書店	1985年	
79	目のまへの	国語教材	斎藤茂吉全集 第六巻 (第1刷)	65	斎藤茂吉	岩波書店	1954年	
79	我が家の	国語教材	赤彦全集 第一巻 (再版)	558	島木赤彦	岩波書店	1969年	
79	小春日や	国語教材	火事物語 (第1刷)	29	皆吉司	牧羊社	1984年	
79	炎天に	国語教材	沢木欣一集 (第1刷)	70	沢木欣一	俳人協会	1980年	
79	土堤を外れ	国語教材	山口誓子全集 第二巻 (第1刷)	189	山口誓子	明治書院	1977年	
79	曳かるる犬	国語教材	富安風生全集 第一巻 (第1刷)	183	富安風生	講談社	1992年	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
80	猫のひげ	国語教材	水陽炎（第1刷）	75	小島ゆかり	石川書房	1987年	
80	やがて発光するかと	国語教材	永田和宏歌集（初版第1刷）	52	永田和宏	砂子屋書房	1990年	
80	朱の壺に	国語教材	柘榴の宿（第1刷）	32	富小路禎子	短歌新聞社	1983年	
80	頸つかみ	国語教材	筏井嘉一全歌集（第1刷）	52	筏井嘉一	短歌新聞社	1993年	
80	十月の	国語教材	坪内稔典句集（初版）	72	坪内稔典	ふらんす堂	1992年	
80	黒猫の	国語教材	飯田龍太集 昨日の徑（第1刷）	152	飯田龍太	三一書房	1986年	
80	百代の	国語教材	雪起し 乾・坤（第1刷）	1	加藤楸邨	求龍堂	1987年	
80	恋猫の	国語教材	永田耕衣俳句集成（第1刷）	55	永田耕衣	沖積舎	1985年	
81	ころがりし	国語教材	寺山修司コレクション① 全歌集、全句集（第1刷）	12	寺山修司	思潮社	1992年	
81	暗道の	国語教材	前登志夫歌集（初版）	379	前登志夫	小澤書店	1981年	
81	ずぶ濡れの	国語教材	塚本邦雄全集 第一巻（第1版第1刷）	191	塚本邦雄	ゆまに書房	1998年	
81	そこだけが	国語教材	山崎方代全歌集（第2刷）	72	山崎方代	不識書院	1996年	
81	湯に立ちて	国語教材	果実（初版第1刷）	178	長谷川權	花神社	1996年	
81	春ひとり	国語教材	定本 枯野の沖（第1刷）	179	能村登四郎	牧羊社	1976年	
81	向日葵の	国語教材	篠原鳳作全句文集（第1刷）	68	篠原鳳作	沖積舎	1980年	
81	しぐるるや	国語教材	山頭火全集 第一巻（第1刷）	8	種田山頭火	春陽堂書店	1986年	
82	君と食む	国語教材	サラダ記念日（初版）	28	俵万智	河出書房新社	1987年	
82	一碗には	国語教材	家（第2刷）	140	河野裕子	短歌研究社	2000年	
82	カワセミが	国語教材	地中銀河（第1刷）	175	高野公彦	雁書館	1994年	
82	うすみどり	国語教材	石川啄木全集 第一巻（初版第9刷）	22	石川啄木	筑摩書房	1993年	
82	母の日の	国語教材	鷹羽狩行作品集（第1刷）	93	鷹羽狩行	本阿弥書店	1989年	
82	誰もみな	国語教材	星野立子全集 第一巻（第1刷）	346	星野立子	梅里書房	1998年	
82	葡萄食ふ	国語教材	中村草田男全集2（第1刷）	7	中村草田男	みすず書房	1989年	
82	食べてゐる	国語教材	素十全集 第一巻（初版）	106	高野素十	明治書院	1971年	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
92～101	孫係	国語教材	おまじない (第1刷)	72～87	西加奈子	筑摩書房	2021年	
104～113	山椒魚	国語教材	井伏鱒二全集 第一巻 (増補版)	3～11	井伏鱒二	筑摩書房	1974年	
117～121	物語を発見する力	国語教材	考えの整頓 (初版第1刷)	46～55	佐藤雅彦	暮しの手帖社	2011年	
124～131	真珠の耳飾りの少女	国語教材	いちまいの絵 生きているうちに見るべき名画 (第1刷)	128～135	原田マハ	集英社	2017年	
133～136	フェルメールの技を読む	国語教材	深読みフェルメール (第1刷)	76～84	朽木ゆり子 福岡伸一	朝日新聞出版	2012年	
138～143	花のいざない	国語教材	心より心に伝ふる花 (初版)	16～20	観世寿夫	角川学芸出版	2008年	
148～171	こころ	国語教材	漱石全集 第六巻 (第1刷)	236～241、246～268	夏目漱石	岩波書店	1975年	
182～187	陰影という名の自由	国語教材	コモンズとしての日本近代文学 (第1刷)	236～240	ドミニク・チェン	イースト・プレス	2021年	
189～192	陰翳礼讃	国語教材	谷崎潤一郎全集 第十七巻 (初版)	200～202	谷崎潤一郎	中央公論新社	2015年	
194～199	句を切る	国語教材	俳句的生活 (第1刷)	8～15	長谷川權	中央公論新社	2004年	
202～213	富嶽百景	国語教材	パスティス——大人のアリスと三月兎のお茶会 (第1刷)	182～197	中島京子	筑摩書房	2019年	
215～229	富嶽百景	国語教材	太宰治全集3 (初版第1刷)	124、126～128、134～142、144～146	太宰治	筑摩書房	1998年	
234～237	ゆずる物腰ものほしげ	国語教材	カタコトのうわごと (新版第2刷)	57～60	多和田葉子	青土社	2023年	
239～245	日本語籍を取得した日	国語教材	透明な膜を隔てながら (初版)	19～25	李琴峰	早川書房	2022年	
248～256	檸檬	国語教材	梶井基次郎全集 第一巻 (初版第1刷)	7～13	梶井基次郎	筑摩書房	1999年	
258～259	秘やかな楽しみ	国語教材	梶井基次郎全集 第一巻 (初版第1刷)	336～337	梶井基次郎	筑摩書房	1999年	
261～271	冷たい大根の煮物	国語教材	とんこつQ&A (第1刷)	204～220	今村夏子	講談社	2022年	
276～287	骰子の七の目	国語教材	私と踊って (第1刷)	32～48	恩田陸	新潮社	2015年	
290～297	棒	国語教材	安部公房全集5 (第1刷)	184～188	安部公房	新潮社	1997年	
302～303	のちのおもひに	国語教材	立原道造全集 第1巻 (第4版)	24～25	立原道造	角川書店	1973年	
304～305	足と心	国語教材	中桐雅夫全詩 (第1刷)	310	中桐雅夫	思潮社	1990年	
306～308	ちがう人間ですよ	国語教材	直感の抱擁 (第1刷)	153～155	長谷川龍生	思潮社	1976年	
310～348	舞姫	国語教材	鷗外全集 第一巻 (第1刷)	425～447	森鷗外	岩波書店	1971年	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
354～359	もしも、詩があつたら	国語教材	もしも、詩があつたら（初版第1刷）	5～14	アーサー・ビナード	光文社	2015年	
361～369	祈りとしての文学	国語教材	アラブ、祈りとしての文学（第3刷）	1～2、11～17	岡真理	みすず書房	2011年	
372～387	バグダッドの靴磨き	国語教材	コレクション 戦争と文学 4 9・11変容する戦争（第1刷）	191～206	米原万里他	集英社	2011年	
390～408	夏の花	国語教材	小説集 夏の花（第1刷）	8～31	原民喜	岩波書店	1988年	
411～413	死んだ男の残したものは	国語教材	谷川俊太郎詩集 続（新装版第1刷）	572～574	谷川俊太郎	思潮社	1993年	
414～416	わたしが一番きれいだったとき	国語教材	現代詩文庫20 茨木のり子（第15刷）	37～38	茨木のり子	思潮社	1980年	
418～419	春——イラクの少女シャミラに	国語教材	大空襲三一〇人詩集（初版）	467	柴田三吉他	コールサック社	2009年	
422～432	葉桜と魔笛	国語教材	太宰治全集3（初版第1刷）	214～222	太宰治	筑摩書房	1998年	
436～447	枯野抄	国語教材	芥川龍之介全集 第二巻（第2刷）	282～293	芥川龍之介	岩波書店	1982年	

※上記のもの以外については、編集委員による書き下ろしである。

〔図・地図・表〕

※すべて自社で作成。

出典一覧表

[写真]

申請図書		出典				備考			
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
見返①・②	森鷗外	写真						日本近代文学館	P0002971
見返①・②	夏目漱石	写真						日本近代文学館	P0002499
見返①・②	島崎藤村	写真						日本近代文学館	P0001756
見返①・②	萩原朔太郎	写真						日本近代文学館	P0002557
見返①・②	谷崎潤一郎	写真						日本近代文学館	P0002118
見返①・②	芥川龍之介	写真						日本近代文学館	P0000082
見返①・②	宮沢賢治	写真						日本近代文学館	P0002873
見返①・②	井伏鱒二	写真						共同通信社	2023092604206
見返①・②	梶井基次郎	写真						日本近代文学館	P0000896
見返①・②	原民喜	写真						共同通信社	201802070097
見返①・②	太宰治	写真						日本近代文学館	P0002246
見返①・②	中島敦	写真						日本近代文学館	P0002425
見返①・②	立原道造	写真						日本近代文学館	P0002029
見返①・②	茨木のり子	写真						茨木のり子	
15	河合隼雄	写真						河合隼雄	
19	小川洋子	写真						共同通信社	2024040509945
19	『生きるとは、自分の物語をつくること』	写真	『生きるとは、自分の物語をつくること』	表紙	小川洋子、河合隼雄	新潮社	2011年	自社で撮影	
21	胡蝶の舞	写真						藤山大樹	
25	木内昇	写真						木内昇	
25	『ベスト・エッセイ2014』	写真	『ベスト・エッセイ2014』	表紙	日本文芸家協会	光村図書出版	2014年	自社で撮影	
31	『龍虎図』より	写真			橋本雅邦		明治28年	静嘉堂文庫美術館/DNPアートコミュニケーションズ	
37	中島敦の創作ノート	写真						県立神奈川近代文学館	
40	中島敦	写真						日本近代文学館	P0002425
40	『李陵・山月記』	写真	『李陵・山月記』	表紙	中島敦	新潮社	2009年	自社で撮影	
46	『李陵・山月記 弟子・名人伝』	写真	『李陵・山月記 弟子・名人伝』	表紙	中島敦	KADOKAWA	1968年	自社で撮影	
46	『中島敦全集1』	写真	『中島敦全集1』	表紙	中島敦	筑摩書房	1993年	自社で撮影	
46	『斗南先生・南島譚』	写真	『斗南先生・南島譚』	表紙	中島敦	講談社	1997年	自社で撮影	
51	スワンプナート	写真						PIXTA	61209221
51	カトマンズの町並み	写真						アフロ	24266382
60	角田光代	写真						朝日新聞社	P210115000619
60	『さがしもの』	写真	『さがしもの』	表紙	角田光代	新潮社	2010年	自社で撮影	
61	『ツリーハウス』	写真	『ツリーハウス』	表紙	角田光代	文藝春秋	2013年	自社で撮影	
61	『八日目の蟬』	写真	『八日目の蟬』	表紙	角田光代	中央公論新社	2011年	自社で撮影	
61	『いつも旅のなか』	写真	『いつも旅のなか』	表紙	角田光代	KADOKAWA	2008年	自社で撮影	
66	繁葉	写真						ユニフォトプレス	NNP_0036A42514
68	島崎藤村	写真						日本近代文学館	P0001756
68	『若菜集』	写真	『若菜集』	表紙	島崎藤村	春陽堂	1897年	自社で撮影	
68	『春』	写真	『春』	表紙	島崎藤村	新潮社	1950年	自社で撮影	
71	萩原朔太郎	写真						日本近代文学館	P0002557
71	マンドリンを持つ朔太郎	写真						前橋文学館	
71	『猫町』	写真	『猫町』	表紙	萩原朔太郎	岩波書店	1995年	自社で撮影	
72	(宮沢トシ)	写真						林風舎	
72	蓴菜	写真						アフロ	5611681
77	宮沢賢治	写真						日本近代文学館	P0002873
77	幼少期のトシ(左)と賢治(右)	写真						林風舎	
77	『銀河鉄道の夜』	写真	『銀河鉄道の夜』	表紙	宮沢賢治	KADOKAWA	1969年	自社で撮影	
78	姫蛭蝶	写真						アフロ	12911088
78	からす揚羽	写真						アフロ	14551118
82	カワセミ	写真						アフロ	14962099
82	蓼	写真						アフロ	169128446
90	桜貝	写真						アーテファクトリー	B-60159
90	花菖蒲	写真						PIXTA	35931863
90	曼珠沙華	写真						PIXTA	3009447
90	枯れ尾花	写真						アフロ	151623710
90	福寿草	写真						PIXTA	3993002
101	西加奈子	写真						西加奈子	
101	『おまじない』	写真	『おまじない』	表紙	西加奈子	筑摩書房	2021年	自社で撮影	
103	『円卓』	写真	『円卓』	表紙	西加奈子	文藝春秋	2013年	自社で撮影	
103	『サラバ! 上』	写真	『サラバ! 上』	表紙	西加奈子	小学館	2017年	自社で撮影	

申請図書		出典						備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
103	『くもをさがす』	写真	『くもをさがす』	表紙	西加奈子	河出書房新社	2023年	自社で撮影	
104	杉苔	写真						アマナイメージズ	1808020024
105	銭苔	写真						アマナイメージズ	32053018041
107	すずめのひえくさ	写真						アーテファクトリー	EJ-02073
109	みずすまし(あめんぼ)	写真						アーテファクトリー	11601186
113	井伏鱒二	写真						共同通信社	2023092604206
113	『山椒魚』	写真	『山椒魚』	表紙	井伏鱒二	新潮社	1948年	自社で撮影	
115	『黒い雨』	写真	『黒い雨』	表紙	井伏鱒二	新潮社	1970年	自社で撮影	
115	『厄除け詩集』	写真	『厄除け詩集』	表紙	井伏鱒二	講談社	1994年	自社で撮影	
115	『ドリトル先生航海記』	写真	『ドリトル先生航海記』	表紙	井伏鱒二訳	岩波書店	2000年	自社で撮影	
125	「真珠の耳飾りの少女」	写真	「真珠の耳飾りの少女」		ヨハネス・フェルメール			アフロ	140161271
129	リュート	写真						ユニフォトプレス	uniP_25.AFM0T0
132	原田マハ	写真						原田マハ	
132	『いちまいの絵 生きているうちに見るべき名画』	写真	『いちまいの絵 生きているうちに見るべき名画』	表紙	原田マハ	集英社	2017年	自社で撮影	
137	「牛乳を注ぐ女」	写真	「牛乳を注ぐ女」		ヨハネス・フェルメール			アムステルダム国立美術館	
137	「音楽の稽古」	写真	「音楽の稽古」		ヨハネス・フェルメール			ユニフォトプレス	00013702AKG178149
139	せり	写真						PIXTA	7164543
139	なすな	写真						PIXTA	2484232
139	ごぎょう	写真						PIXTA	16660954
139	はこべら	写真						PIXTA	38695518
139	ほとけのざ	写真						PIXTA	35930454
139	すずな	写真						PIXTA	6871225
139	すずしろ	写真						PIXTA	53644098
139	はぎ	写真						PIXTA	54245324
139	おばな	写真						PIXTA	59447930
139	くず	写真						PIXTA	81752072
139	なでしこ	写真						PIXTA	16043085
139	おみなえし	写真						PIXTA	42510207
139	ふじばかま	写真						PIXTA	12807279
139	あさがお	写真						PIXTA	54932511
141	鉢木	写真						鏡仙会・吉越研	
143	地謡	写真						公益社団法人能楽協会	
143	観世寿夫	写真						鏡仙会	
143	『心より心に伝ふる花』	写真	『心より心に伝ふる花』	表紙	観世寿夫	KADOKAWA	2008年	自社で撮影	
152	明治期の帝国大学図書館の外観	写真	『東京帝国大学 明33』	25	小川一真編	小川写真製版所	明治33年	国立国会図書館デジタル化資料	
152	明治期の帝国大学図書館の中の様子	写真						東京大学文書館	
153	東京帝国大学の竜岡門(大正元年ごろ)	写真						東京大学文書館	
165	「東京最新全図」(明治38年ごろ)より	写真	「市街線入東京最新全図」					自社で撮影	
173	『こころ』新聞連載第1回	写真						朝日新聞クロスサーチ	
173	『こころ』自筆原稿	写真						岩波書店	
173	『こころ』初版本	写真						日本近代文学館	
173	『こころ』	写真	『こころ』	表紙	夏目漱石	新潮社	2004年	自社で撮影	
175	夏目漱石	写真						日本近代文学館	P0002499
175	『吾輩は猫である』挿絵	写真						日本近代文学館	P0008058
176	『虞美人草』	写真	『虞美人草』	表紙	夏目漱石	新潮社	1951年	自社で撮影	
176	『それから』	写真	『それから』	表紙	夏目漱石	新潮社	1985年	自社で撮影	
176	『明暗』	写真	『明暗』	表紙	夏目漱石	新潮社	2010年	自社で撮影	
183	『琴棋書画図』に囲まれた畳の間	写真						妙心寺 春光院	
188	ドミニク・チェン	写真						朝日新聞社	P230308000729
188	『コモンズとしての日本近代文学』	写真	『コモンズとしての日本近代文学』	表紙	ドミニク・チェン	イースト・プレス	2021年	自社で撮影	
190	書院の床の間	写真						養浩館庭園	
191	庇	写真						アフロ	32436161
192	谷崎潤一郎	写真						日本近代文学館	P0002118
192	『陰翳礼讃』	写真	『陰翳礼讃』	表紙	谷崎潤一郎	中央公論新社	1995年	自社で撮影	
194	松尾芭蕉(芭蕉翁画像)	写真			小川破笠			芭蕉翁顕彰会(芭蕉翁記念館)	
194	互謝蕪村	写真						サイネットフォト	SPEMP321M
195	向井去来	写真						国立国会図書館デジタル化資料	
196	飯田龍太	写真						時事通信社	jp00924912
198	灰汁桶	写真						国立公文書館	
200	長谷川權	写真						長谷川權	
200	『俳句的生活』	写真	『俳句的生活』	表紙	長谷川權	中央公論新社	2004年	自社で撮影	
204	岩木山	写真						アフロ	118148063

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
204	レーニエ山	写真						サイネットフォト SPE2E552DB
211	太宰(左)と井伏(右)	写真						日本近代文学館 P0002218
214	中島京子	写真						朝日新聞社 P190918000338
214	『バステイス』	写真	『バステイス』	表紙	中島京子	筑摩書房	2019年	自社で撮影
216	「富嶽三十六景 凱風快晴」(葛飾北斎筆)	写真						Colbase
216	「東海道五十三次 原 朝の富士」(歌川広重筆)	写真						静岡県立美術館
216	「富士山図屏風」(谷文晁筆)	写真						静岡県立美術館
217	小島島水	写真						日本山岳会
219	風呂屋のペンキ画	写真						アフロ 89631793
221	天下茶屋	写真						PIXTA 10558256
221	マツヨイグサ	写真						Photolibrary 172101
223	富士山と月見草	写真						アフロ comp_24298199
223	御坂峠の文学碑	写真						PIXTA 45954571
229	甲府から見た富士	写真						時事通信社 jloupe01885702
231	『FUTON』	写真	『FUTON』	表紙	中島京子	講談社	2007年	自社で撮影
231	『小さいおうち』	写真	『小さいおうち』	表紙	中島京子	文藝春秋	2012年	自社で撮影
231	『長いお別れ』	写真	『長いお別れ』	表紙	中島京子	文藝春秋	2018年	自社で撮影
238	多和田葉子	写真						多和田葉子
238	『カタコトのうわごと(新版)』	写真	『カタコトのうわごと(新版)』	表紙	多和田葉子	青土社	2022年	自社で撮影
239	東山彰良	写真						共同通信社 2019120900098
246	李琴峰	写真						李琴峰
246	『透明な膜を隔てながら』	写真	『透明な膜を隔てながら』	表紙	李琴峰	早川書房	2022年	自社で撮影
250	煙管	写真						Photolibrary 620604
252	慈姑	写真						PIXTA 36972949
255	アングル	写真						ユニフォトプレス BAL_ALG227116
256	梶井基次郎	写真						日本近代文学館 P0000896
256	『檸檬』	写真	『檸檬』	表紙	梶井基次郎	KADOKAWA	2013年	自社で撮影
258	セザンヌ	写真						アマナイメーجز e8thke
259	レンブラント	写真						サイネットフォト STV110067231
259	マチス	写真						サイネットフォト GRA110013278
260	『檸檬』	写真	『檸檬』	表紙	梶井基次郎	新潮社	2010年	自社で撮影
260	『檸檬・冬の日』	写真	『檸檬・冬の日』	表紙	梶井基次郎	岩波書店	1954年	自社で撮影
260	『梶井基次郎』	写真	『梶井基次郎』	表紙	梶井基次郎	筑摩書房	2008年	自社で撮影
272	今村夏子	写真						共同通信社 2019071804207
272	『とんこつQ&A』	写真	『とんこつQ&A』	表紙	今村夏子	講談社	2022年	自社で撮影
273	『こちらあみ子』	写真	『こちらあみ子』	表紙	今村夏子	筑摩書房	2014年	自社で撮影
273	『むらさきのスカートの女』	写真	『むらさきのスカートの女』	表紙	今村夏子	朝日新聞出版	2022年	自社で撮影
273	『あひる』	写真	『あひる』	表紙	今村夏子	KADOKAWA	2019年	自社で撮影
287	恩田陸	写真						朝日新聞社 P181220000548
287	『私と踊って』	写真	『私と踊って』	表紙	恩田陸	新潮社	2015年	自社で撮影
289	『夜のピクニック』	写真	『夜のピクニック』	表紙	恩田陸	新潮社	2006年	自社で撮影
289	『蜜蜂と遠雷』	写真	『蜜蜂と遠雷』	表紙	恩田陸	幻冬舎	2019年	自社で撮影
289	『光の帝国 常野物語』	写真	『光の帝国 常野物語』	表紙	恩田陸	集英社	2000年	自社で撮影
297	安部公房	写真						時事通信社 915324
297	『R62号の発明・鉛の卵』	写真	『R62号の発明・鉛の卵』	表紙	安部公房	新潮社	1974年	自社で撮影
299	『砂の女』	写真	『砂の女』	表紙	安部公房	新潮社	2003年	自社で撮影
299	『他人の顔』	写真	『他人の顔』	表紙	安部公房	新潮社	1968年	自社で撮影
299	『箱男』	写真	『箱男』	表紙	安部公房	新潮社	2005年	自社で撮影
302	水引草	写真						アーテファクトリー 33403882
302	草ひばり	写真						ゲッティイメーجز 1734646328
303	立原道造	写真						日本近代文学館 P0002029
305	中桐雅夫	写真						朝日新聞社 P110719002901
308	長谷川龍生	写真						名谷文朝
314	ブランデンブルク門	写真						PIXTA 54281526
314	凱旋塔(戦勝記念塔)	写真						アフロ 1198761
315	ウンテル-デン-リンデン(1880~90年ごろ)	写真						アフロ 26100452
320	マリエ教会	写真						アフロ 8150076
325	ショーベンハウエル	写真						アフロ 7957850
325	シルレル	写真						アフロ 60366597
327	ハックレンデル	写真						アフロ 229831322
331	ビオルネ	写真						アフロ 229831166
331	ハイネ	写真						アフロ 22175534
334	ホテル・カイゼルホーフ	写真						ユニフォトプレス NECagphotos017004

申請図書		出典						備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
348	『舞姫・うたかたの記』	写真	『舞姫・うたかたの記』	表紙	森鷗外	KADOKAWA	2013年	自社で撮影	
350	森鷗外	写真						日本近代文学館	P0002971
351	『舞姫・うたかたの記 他三篇』	写真	『舞姫・うたかたの記 他三篇』	表紙	森鷗外	岩波書店	1981年	自社で撮影	
351	『雁』	写真	『雁』	表紙	森鷗外	新潮社	1948年	自社で撮影	
351	『阿部一族 他二篇』	写真	『阿部一族 他二篇』	表紙	森鷗外	岩波書店	2007年	自社で撮影	
352	十九世紀末ごろのウンテル-デン-リンデン	写真						Getty Images	1400219482-170667a
354	ダンテ	写真						アフロ	106126496
354	ホイットマン	写真						アフロ	266343717
356	オズワルド・デ・アンドラーデ	写真						ユニフォトプレス	ALA_J46CH4
359	アーサー・ビナード	写真						アーサー・ビナード	
359	『もしも、詩があったら』	写真	『もしも、詩があったら』	表紙	アーサー・ビナード	光文社	2015年	自社で撮影	
362	サルトル	写真						ユニフォトプレス	uniH_RDA00132256
365	ブリーモ・レーヴィ	写真						サイネットフォト	SPEHP810R
367	カズオ・イシグロ	写真						ユニフォトプレス	
370	岡真理	写真						朝日新聞社	P240228000416
370	『アラブ、祈りとしての文学』	写真	『アラブ、祈りとしての文学』	表紙	岡真理	みすず書房	2015年	自社で撮影	
383	フセイン	写真						共同通信社	1052200003
387	米原万里	写真						ユニフォトプレス	KDO_2003050100065
387	『9・11 変容する戦争』(『コレクション戦争×文学 4 9・11 変容する戦争』)	写真	『9・11 変容する戦争』(『コレクション戦争×文学 4 9・11 変容する戦争』)	表紙	米原万里他	集英社	2011年	自社で撮影	
389	『戦場の博物誌 開高健短篇集』	写真	『戦場の博物誌 開高健短篇集』	表紙	開高健	講談社	2009年	自社で撮影	
389	『白い紙/サラム』	写真	『白い紙/サラム』	表紙	シリン・ネザマフィ	文藝春秋	2009年	自社で撮影	
389	『女の子たち風船爆弾をつくる』	写真	『女の子たち風船爆弾をつくる』	表紙	小林エリカ	文藝春秋	2024年	自社で撮影	
395	原爆投下後の広島①	写真						平和記念資料館	
395	原爆投下後の広島②	写真						平和記念資料館	
408	原民喜	写真						共同通信社	201802070097
408	『夏の花・心願の国』	写真	『夏の花・心願の国』	表紙	原民喜	新潮社	1973年	自社で撮影	
410	『原爆詩集』	写真	『原爆詩集』	表紙	峠三吉	岩波書店	2016年	自社で撮影	
410	『明日——一九四五年八月八日・長崎』	写真	『明日——一九四五年八月八日・長崎』	表紙	井上光晴	集英社	1986年	自社で撮影	
410	『はだしのゲン(1)』	写真	『はだしのゲン(1)』	表紙	中沢啓治	中央公論新社	1998年	自社で撮影	
413	谷川俊太郎	写真						共同通信社	2022042011016
416	ルオー	写真						アフロ	59418437
417	茨木のり子	写真						茨木のり子	
418	ヤマモモ	写真						アマナイメーجز	10157003530
420	柴田三吉	写真						柴田三吉	
424	東郷平八郎	写真						サイネットフォト	TPG110085009
432	『女生徒』	写真	『女生徒』	表紙	太宰治	KADOKAWA	2009年	自社で撮影	
434	太宰治	写真						日本近代文学館	P0002246
434	太宰治生家	写真						PIXTA	50082640
434	『人間失格』初版本	写真	『人間失格』	表紙	太宰治	筑摩書房	1948年	日本近代文学館	P0003693
435	『走れメロス』	写真	『走れメロス』	表紙	太宰治	新潮社	2005年	自社で撮影	
435	『津軽』	写真	『津軽』	表紙	太宰治	新潮社	1951年	自社で撮影	
435	『人間失格』	写真	『人間失格』	表紙	太宰治	新潮社	1952年	自社で撮影	
441	行灯	写真						Photolibrary	1079556
447	『戯作三昧・一塊の土』	写真	『戯作三昧・一塊の土』	表紙	芥川龍之介	新潮社	2010年	自社で撮影	
449	芥川龍之介	写真						日本近代文学館	P0000082
450	『河童・戯作三昧』	写真	『河童・戯作三昧』	表紙	芥川龍之介	KADOKAWA	2008年	自社で撮影	
450	『杜子春』	写真	『杜子春』	表紙	芥川龍之介	KADOKAWA	2017年	自社で撮影	
450	『地獄変・偷盗』	写真	『地獄変・偷盗』	表紙	芥川龍之介	新潮社	1968年	自社で撮影	
459	幸田露伴(左)と尾崎紅葉	写真						日本近代文学館	P0000786
463	『文豪ストレイドッグス(1巻)』	写真	『文豪ストレイドッグス 1巻』	表紙				自社で撮影	
463	『文豪ストレイドッグス(2巻)』	写真	『文豪ストレイドッグス 2巻』	表紙				自社で撮影	
口絵⑤	森鷗外(学生時代)	写真						文京区立森鷗外記念館	300008
口絵⑤	夏目漱石(学生時代)	写真						日本近代文学館	P0002475
口絵⑤	芥川龍之介(学生時代)	写真						日本近代文学館	P0000126
口絵⑤	梶井基次郎(学生時代)	写真						日本近代文学館	P0002432
口絵⑤	太宰治(学生時代)	写真						日本近代文学館	
口絵⑤⑥	東京帝国大学(明治40年代)	写真						国立国会図書館デジタル化資料	
口絵⑥	明治末期の男子学生	写真						東京大学駒場博物館	
口絵⑥	昭和初期の男子学生	写真	『白線帽の青春』西日本編』	153		国書刊行会	1998年	自社で撮影	
口絵⑥	大正期の女子学生	写真						アフロ	6506119
口絵⑥	大正期の小学生	写真						朝日新聞社	P160315000686
口絵⑥	大正期の男子学生	写真						日本近代文学館	P0001443

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
口絵⑥	昭和初期の女子学生	写真						朝日新聞社 P140625005121
口絵⑥	四高生記念像	写真						石川四高記念文化交流館
口絵⑦	火鉢	写真						昭和のくらし博物館
口絵⑦	箱膳	写真						台東区立したまちミュージアム
口絵⑦	柳行李	写真						台東区立したまちミュージアム
口絵⑦	七輪	写真						アフロ 21632318
口絵⑦	火のし	写真						台東区立したまちミュージアム
口絵⑦	たらいと洗濯板	写真						昭和のくらし博物館
口絵⑦	木製の氷冷蔵庫	写真						昭和のくらし博物館
口絵⑦	蓄音機	写真						テクニカ・ギャラリー
口絵⑦	電話機	写真						NTT東日本情報通信史料センター
口絵⑦	ラジオ	写真						江戸東京博物館 88207024
口絵⑦	箱膳での食事	写真						中俣正美(中俣正義撮影)
口絵⑦	昭和初期の台所	写真						朝日新聞社 P231102000158
口絵⑦	ちゃぶ台のある茶の間	写真						昭和のくらし博物館
口絵⑦	足踏み式ミシン	写真						昭和のくらし博物館
口絵⑦	テレビ	写真						江戸東京博物館 88010043
口絵⑦	洗濯機	写真						自社で撮影
口絵⑦	冷蔵庫	写真						自社で撮影
見返⑧	軍事教練	写真						朝日新聞社 P100413057691
見返⑧	学徒出陣	写真						朝日新聞社 P100413032126
見返⑧	国民学校生徒の勤労奉仕(女生徒)	写真						毎日新聞社 P20000328dd1dd4phj878000
見返⑧	国民学校生徒の勤労奉仕(男子生徒)	写真						毎日新聞社 P19950727dd1dd2phj439000
見返⑧	戦争ごっこ	写真						朝日新聞社 P120911002052
見返⑧	ゴム跳び	写真						アフロ 6440501
見返⑧	メンコ	写真						朝日新聞社 P100420016100
見返⑧	紙芝居とケンケン遊び	写真						アフロ 6600240
見返⑧	チャンバラごっこ	写真						毎日新聞社 P20000826dd1dd3phj905000
見返⑨	東京・本郷周辺(明治40年ごろ)	写真	『臨時増刊 風俗画報 第373号』「本郷三丁目及同四丁目の図」			東陽堂	1907年	自社で撮影
見返⑨	東京・銀座(昭和初期)	写真						アフロ 29981857
見返⑨	昭和初期の人々	写真						毎日新聞社 P19950723dd1dd1phj664000
見返⑨	モダンガール	写真						サイネットフォト ASA110007960
見返⑩	東京・浅草の興行街(大正期)	写真						サイネットフォト UIG110170817
見返⑩	「バスター・キートンの蒸気船」(昭和3年)	写真						サイネットフォト PHT110187846
見返⑩	「雄呂血」(大正14年)	写真						マツダ映画社
見返⑩	街頭ラジオ(昭和11年)	写真						アフロ 6530832
見返⑩	街頭テレビ(昭和28年)	写真						アフロ 13145420

- 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。
(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。☑

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由	
【第I部】 1 随想・評論(一) なぜ書くのか	p14・2	書くのですか。」	〈句点なし〉	<ul style="list-style-type: none"> 教科書としてより適切な表現に改めた。以下、この修正については同様。 わかりやすくするため。 同上。 読みやすさに配慮して語の説明を脚注に回した。 一般的な符号に改めた。以下、本教材内のこの修正については同様。 教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 わかりやすくするため。以下、原文にない読点の追加については同様。 	
	p15・5 p17・4 p17・7	河合隼雄先生 心理療法の現場で、 ペイスト・メディスン」	河合先生 心理分析の治療の現場で、 〈このあと原文削除〉		
	p17・15	「本当に『医療』を	“本当に「医療」を		
	p19・2	楽になりました。	〈原文の一部削除・入れ換え〉		
	p22・6	読んだらどうだ」、	〈読点なし〉		
3 詩・短歌・俳句	p75・11～13	どうかこれが兜率の天の食に変わって／やがてはおまへとみんなとに／聖い資糧をもたらすことを	どうかこれが天上のアイスクリームになつて／おまへとみんなとに聖い資糧をもたらすやうに	<ul style="list-style-type: none"> 宮沢家本に従って改めた。 	
4 小説(二)	p94・上2	ため息ついた！」〈改行のあと一行あき〉	ため息ついた！」〈改行のみ〉	<ul style="list-style-type: none"> 他の活字本に従って改めた。 	
	p111・9	と山椒魚はどなった。	〈原文では、会話文のあとには一字下げで始まっているが、教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため、一字下げをやめ、普通の形に改めた。なお、以後の作品についても同様。〉	<ul style="list-style-type: none"> 教科書としてより適切な表記に改めた。 	
	p118・上1 p118・上6 p118・下4 p118・下7 p119・上6	前のページの図には 左の図を 私の研究室 聞かせてくれます。〈削除〉 「人間に用意された生きていくための力」	右の図には 次の図を 慶応大学の佐藤研 聞かせてくれます。(※) 『人間に用意された生きていくための力』	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすくするため。 同上。 同上。 注を掲載していないため。 一般的な符号に改めた。 	
	p119・上10	忘れていたりすると、	忘れていくとすると、	<ul style="list-style-type: none"> 教科書としてより適切な表現に改めた。 	
	p121・上3 p121・下17	がくりと落ちて 可能にさせているのです。	がくりと変わって 〈このあと原文削除〉	<ul style="list-style-type: none"> 同上。 読みやすさを考慮して、先行研究に関する注を削除。 	
	5 随想・評論(二) 芸術との出会い	p129・14	写真や映画といった未来の産物がまだなかった	写真や映画などはるかな未来の産物のなかった	<ul style="list-style-type: none"> 教科書としてより適切な表現に改めた。
	p133・下3 p133・下16	うまく説明できません(笑)。 ユニークなものだったことでしょう。	うまく説明できないわ(笑)。 ユニークなものだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の意向による。 同上。 	
p135・上7 p135・上12 p135・下7 p135・下10	その当時に？ いたと思います。 映画の原作となったトレイシー・シュヴァリエの小説 ステッドマンや、フェルメール研究を	へえ、その当時に？ 〈このあと原文削除〉 シュヴァリエの小説 ステッドマンや、後で話題にのぼるはずの“執念の身元調査人”で、フェルメール研究を	<ul style="list-style-type: none"> 同上。 部分採録のため。 わかりやすくするため。 部分採録のため。 		
6 小説(三)	p148～171	〈章番号を削除し、一行あきとした〉		<ul style="list-style-type: none"> 部分採録のため。 	
	p152・下10 p161・下4	静かでした。 まだよかったかもしれません。	〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉	<ul style="list-style-type: none"> 採録スペースの関係による。 教育的配慮による。 	
	7 随想・評論(三) 日本文化の特徴	p182・5	副住職と	副住職の川上全龍氏と	<ul style="list-style-type: none"> 煩雑さを避けるため。以下、本教材内の個人名の削除については同様。
p182・6	鑑賞したりした。	鑑賞した。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書としてより適切な表現に改めた。 		
p183・16 p184・1	自然と谷崎潤一郎の 副住職に聞けば、	自然と谷崎の 当院の川上師に聞けば、	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすくするため。 上記 p182・5 の修正に合わせて修正。 上記 p183・16 の修正に合わせて修正。 		
p184・1	先々代は谷崎と	先々代は谷崎潤一郎と	<ul style="list-style-type: none"> 煩雑さを避けるため。 		
p184・5 p186・11	目にすることは少なくない。 それは、私が	〈このあと原文削除〉 それは、冒頭で述べたように、わたしが	<ul style="list-style-type: none"> 部分採録のため、前項を受けた表現を削除。 		
p186・12	ウェル・ビーイング(心理的充足)	ウェル・ビーイング	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすくするため。 		

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
	p 189・1	〈冒頭を一字下げ〉		・教科書としてより適切な表現に改めた。
	p 194～199	〈節番号・一行空きを削除〉		・評論教材としての学習上の配慮による。
	p 194・9 p 195・12	俳句の「切れ」である。「切れ」という観点から、	〈このあと原文削除〉 切れという観点から、	・採録スペースの関係による。 ・わかりやすくするため。以下、この修正については同様。
	p 196・11 p 197・6 p 198・9	というわけである。包み込んでいる。これは誤りである。	〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 これも誤りである。	・教育的配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・部分採録のため、前項を受けた表現を修正。
8 小説（四）	p 202・下8	妻	嫁	・作者の意向による。
	p 217・上2	高くなければいけない。	〈このあと原文を削除し、一行空きを追加〉	・採録スペースの関係による。
	p 217・上7	小島烏水という人の『日本山水論』にも、	小島烏水という人の日本山水論にも、	・書名であるため。以下、この修正については同様。
	p 220・下1	対談した。	〈このあと原文を削除し、一行空きを追加〉	・採録スペースの関係による。
	p 224・下16	思い惑うのである。	〈このあと原文を削除し、一行空きを追加〉	・同上。
	p 227・下5	美しいと思った。	〈このあと原文を削除し、一行空きを追加〉	・同上。
【第Ⅱ部】 1 随想・評論（一） 日本語へのまなざし	p 234・1	十六年以上が過ぎたころ、	十六年以上になるが、この間、	・文章が書かれた当時とは状況が異なるため。
	p 234・2 p 234・4	隣の人が、店員に間に合わせます」「狭い部屋で	隣の人が、ウエイトレスに間に合わせます」「狭い部屋で	・教育的配慮による。 ・わかりやすくするため。以下、読点の削除については同様。
	p 237・11	必要はない。〈改行〉わたしは	〈改行なし〉	・わかりやすくするため。以下、原文にない改行については同様。
	p 237・12 p 237・14	この人で間に合わせます、日本語が母国語であるとしても、「日本語でいいです」	〈このあと原文削除〉 もちろん、日本語が母国語であることは事実だが、だから「日本語でいいです」	・教育的配慮による。 ・同上。
	p 239・1	二〇一九年に、	先日、	・文章が書かれた当時とは状況が異なるため。
	p 239・1 p 239・2	『独り舞』の繁体字中国語版相当珍しいだろう。	『独り舞』の中国語版 〈このあと原文削除〉	・筆者の意向による。 ・特定企業の出版物名の掲載を避けるため。以下、本教材内のこの修正については同様。
	p 239・3	台湾出身の作家	台湾人作家	・筆者の意向による。以下、本教材内のこの修正については同様。
	p 239・3	台湾出身の作家である。日本語で	台湾人作家である。〈改行〉日本語で	・文章の流れを中断しないため。以下、文を続けた箇所については同様。
	p 239・4 p 240・1	東山彰良さんが先輩に当たる。ポテトチップスの多言語の食品表示	東山彰良さんが有名だろう。プリングルズの多言語の食品表示	・筆者の意向による。 ・特定の商品名の掲載を避けるため。
	p 240・3	そのポテトチップスを食べるときは筒状の容器の中から上へ	プリングルズを食べる時は筒状の容器の中からポテトチップスを上へ	・特定の商品名の掲載を避けるために商品名を削除するとともに、文章を整えた。
	p 242・1	日本企業に就職した。	日本企業で就職した。	・教科書としてより適切な表現に改めた。
	p 243・1 p 244・5	熟語を好んで使った。解釈権があると思われないことが多い。	〈このあと原文削除〉 解釈権がないのだ。	・煩雑さを避けるため。 ・筆者の意向による。
	p 244・6	口出しするのをよしとしない人が多いのと同じように。	口出しする権利が認められないように。	・同上。
	p 245・14	出版社のビルを	講談社ビルを	・特定の企業名の掲載を避けるため。
2 小説（一）	p 248・7	二、三小節	二三小節	・誤読を避けるため。以後、この修正については同様。
	p 259・7 p 259・11	ほゝゑまひて ほゝゑみて	ほゝゑまひて ほゝゑみて	・一般的な表記に従った。 ・同上。

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
3 小説(二)	p 282・上1 p 282・上6 p 293・15	忠津さん 手に入れようとしたりする 盲人	忠津先生 手に入れようとする 盲	・前後の会話での呼び方に合わせて修正。 ・教科書としてより適切な表現に改めた。 ・教育的配慮による。以下、本教材内のこの修正については同様。
6 随想・評論(二) 文学はなぜ必要か	p 354・3 p 355・13 p 356・2 p 356・3 p 358・11 p 358・12 p 361～p 369 p 361・8 p 362・2 p 362・2 p 362・10 p 362・14 p 363・1 p 365・17 p 367・1 p 367・15 p 368・9 p 368・11 p 368・15 p 369・2 p 369・13	「もしも」のとき 「無理」か。 焼き上げたような詩だ。 ポルトガル人のぼかミス〈削除〉 「一度だけこの世をわたっていく」ということを前提とするなら、「旅の恥はかき捨て」になるのか。 〈小見出しを削除〉 アメリカ合衆国が 難民キャンプの中央部は 土砂の海と化していた。 文学は何ができるのか。 意味があるのだろうか――。 案内されて回っていた。 ともに連れ去られ 映画『アイランド』が、ホロコーストの 生きるために必死に努力する。 作品は示唆する。 芸術作品を残したりする 人間性を閑却する 私たちがすでに、 だが、祈りとは何なのか。	「もしものとき」 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 ポルトガル人のぼかミス／オズワルド・デ・アンドラーデ つまり「一度だけこの世をわたっていくのだ」ということなら、 〈このあと原文削除〉 アメリカ合州国が 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 文学は何ができるのか？ 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 映画『アイランド』(二〇〇五年、監督マイケル・ベイ)が、ホロコーストのイメージをあからさまに反復しながら、ホロコーストの 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 芸術作品を残す 人間性を閑却に付す 私たちはすでに、 〈このあと原文削除〉	・教材としての学習上の配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。 ・直前の本文で作者名が示されているため。 ・わかりやすくするため。 ・採録スペースの関係による。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・一般的な表記に改めた。 ・煩雑さを避けるため。 ・同上。 ・教科書としてより適切な表現に改めた。以下、本教材内のこの修正については同様。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・同上。 ・同上。 ・同上。 ・同上。 ・教科書採録箇所以外の部分を受けた表現であるため。
7 戦争と文学	p 386・13 p 392・上17 p 398・上4 p 399・下9 p 401・下8 p 402・上2 p 405・下9	「人間の盾」 こども 小床 すでに 向こうの砂原 ……お母さん、……姉さん、…… あったものだ。〈改行のあと一行あき〉 橋があった。	『人間の盾』 こゆか 小床 即 <small>むかひ</small> に 向の砂原 ……お母さん、……姉さん…… あったものだ。〈改行のみ〉 橋があった、	・一般的な符号に改めた。 ・原典の誤りと思われるため。 ・同上。 ・他の活字本に従って改めた。 ・同上。 ・同上。 ・同上。
8 小説(四)	p 424・15 p 436～447 p 436・3 p 444・上14	妹のことでいっばいだったので、 旅に病んで 最期	妹のことで一ぱいで、半気違ひの有様だったので、 旅に病むで 最後	・教育的配慮による。 ・『沙羅の花』所収の『枯野抄』本文に従って、読み方を示すとともに、漢字・仮名表記の変更を行った。 ・一般的な撥音表記に従った。 ・『沙羅の花』本文に従って改めた。

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考にする情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	3	二次元コード		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
	3	URL		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
	表4	二次元コード		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
2	14	二次元コード		自社ページURL	『生きるとは、自分の物語を作ること』 語句の言い換え	別紙2添付
				自社ページURL	『生きるとは、自分の物語を作ること』 語句の意味	別紙3添付
3	21	二次元コード		自社ページURL	『わからないからおもしろい』 語句の言い換え	別紙4添付
				自社ページURL	『わからないからおもしろい』 語句の意味	別紙5添付
4	28	二次元コード		自社ページURL	『山月記』 語句の言い換え	別紙6添付
				自社ページURL	『山月記』 語句の意味	別紙7添付
5	40	二次元コード	神奈川近代文学館	https://www.kanabun.or.jp/nakajima/	参考リンク：中島敦直筆資料デジタルアーカイブ	
6	47	二次元コード		自社ページURL	『旅する本』 語句の言い換え	別紙8添付
				自社ページURL	『旅する本』 語句の意味	別紙9添付
7	66	二次元コード		自社ページURL	『小諸なる古城のほとり』・『風船乗りの夢』・『永訣の朝』 語句の言い換え	別紙10添付
				自社ページURL	『小諸なる古城のほとり』・『風船乗りの夢』・『永訣の朝』 語句の意味	別紙11添付
			国立国会図書館	https://dl.ndl.go.jp/pid/1328883	参考リンク：弘田龍太郎作曲『小諸なる古城のほとり』	
8	68	二次元コード	藤村記念館	http://toson.jp/	参考リンク：藤村記念館	
9	69	二次元コード		自社ページURL	『小諸なる古城のほとり』・『風船乗りの夢』・『永訣の朝』 語句の言い換え	別紙10添付
				自社ページURL	『小諸なる古城のほとり』・『風船乗りの夢』・『永訣の朝』 語句の意味	別紙11添付
10	71	二次元コード	前橋文学館	https://www.maebashibungakukan.jp/	参考リンク：前橋文学館	
			国立国会図書館	https://rekion.dl.ndl.go.jp/pid/3571577	参考リンク：自作朗読『乃木坂倶楽部』 『火』 『沼澤地方』	
11	72	二次元コード		自社ページURL	『小諸なる古城のほとり』・『風船乗りの夢』・『永訣の朝』 語句の言い換え	別紙10添付
				自社ページURL	『小諸なる古城のほとり』・『風船乗りの夢』・『永訣の朝』 語句の意味	別紙11添付
12	77	二次元コード	花巻市	https://www.city.hanamaki.iwate.jp/miyazawakenji/about_kenji/index.html	参考リンク：宮沢賢治について	
13	78	二次元コード		自社ページURL	『短歌と俳句』 語句の言い換え	別紙12添付

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
				自社ページURL	『短歌と俳句』 語句の意味	別紙13添付
14	92	二次元コード		自社ページURL	『孫係』 語句の言い換え	別紙14添付
				自社ページURL	『孫係』 語句の意味	別紙15添付
15	104	二次元コード		自社ページURL	『山椒魚』 語句の言い換え	別紙16添付
				自社ページURL	『山椒魚』 語句の意味	別紙17添付
				自社ページURL	参考動画：自作朗読『山椒魚』	別紙18添付
16	113	二次元コード	ふくやま文学館	https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/bungakukan/jyosetu.html	参考リンク：ふくやま文学館一常設展示紹介	
			NHK	https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=D0009250098_00000	参考動画：あの人に会いたいー井伏鱒二	
17	124	二次元コード		自社ページURL	『真珠の耳飾りの少女』 語句の言い換え	別紙19添付
				自社ページURL	『真珠の耳飾りの少女』 語句の意味	別紙20添付
18	136	二次元コード		自社ページURL	参考資料：レーウェンフック、ステッドマン、モンティアス解説	別紙21添付
			Google	https://g.co/arts/pD2RuGVsokfb5YZe9	参考リンク：ヨハネス フェルメールとアントーニ ファン レーウェンフック	
19	138	二次元コード		自社ページURL	『花のいざない』 語句の言い換え	別紙22添付
				自社ページURL	『花のいざない』 語句の意味	別紙23添付
			日本芸術文化振興会	https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc9/zeami/gyouseki/kakyou01.html	参考リンク：『花鏡』	
20	146	二次元コード		自社ページURL	『こころ』 語句の言い換え	別紙24添付
				自社ページURL	『こころ』 語句の意味	別紙25添付
21	147	二次元コード		自社ページURL	『こころ』 教科書採録以前の部分（房州旅行）	別紙26添付
22	175	二次元コード	漱石山房記念館	https://soseki-museum.jp/	参考リンク：新宿区立漱石山房記念館	
			神奈川近代文学館	https://www.kanabun.or.jp/souseki/index.html	参考リンク：夏目漱石資料デジタルアーカイブ	
23	182	二次元コード		自社ページURL	『陰影という名の自由』 語句の言い換え	別紙27添付
				自社ページURL	『陰影という名の自由』 語句の意味	別紙28添付
24	189	二次元コード		自社ページURL	『陰翳礼讃』 語句の言い換え	別紙29添付
				自社ページURL	『陰翳礼讃』 語句の意味	別紙30添付
25	192	二次元コード	芦屋市谷崎潤一郎記念館	https://www.tanizakikan.com/index.html	参考リンク：芦屋市谷崎潤一郎記念館	
26	194	二次元コード		自社ページURL	『句を切る』 語句の言い換え	別紙31添付

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
				自社ページURL	『句を切る』 語句の意味	別紙32添付
			NHK	https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=D0009250168_00000	参考動画：あの人に会いたいー飯田龍太	
27	202	二次元コード		自社ページURL	『富嶽百景』（中島京子）語句の言い換え	別紙33添付
				自社ページURL	『富嶽百景』（中島京子）語句の意味	別紙34添付
28	215	二次元コード		自社ページURL	『富嶽百景』（太幸治）語句の言い換え	別紙35添付
				自社ページURL	『富嶽百景』（太幸治）語句の意味	別紙36添付
29	234	二次元コード		自社ページURL	『ゆずる物腰ものほしげ』 語句の言い換え	別紙37添付
				自社ページURL	『ゆずる物腰ものほしげ』 語句の意味	別紙38添付
30	239	二次元コード		自社ページURL	『日本語籍を取得した日』 語句の言い換え	別紙39添付
				自社ページURL	『日本語籍を取得した日』 語句の意味	別紙40添付
31	248	二次元コード		自社ページURL	『檸檬』 語句の言い換え	別紙41添付
				自社ページURL	『檸檬』 語句の意味	別紙42添付
32	260	二次元コード		自社ページURL	参考資料：萩原朔太郎『本質的な文学者』	別紙43添付
33	261	二次元コード		自社ページURL	『冷たい大根の煮物』 語句の言い換え	別紙44添付
				自社ページURL	『冷たい大根の煮物』 語句の意味	別紙45添付
34	276	二次元コード		自社ページURL	『骰子の七の目』 語句の言い換え	別紙46添付
				自社ページURL	『骰子の七の目』 語句の意味	別紙47添付
35	290	二次元コード		自社ページURL	『棒』 語句の言い換え	別紙48添付
				自社ページURL	『棒』 語句の意味	別紙49添付
36	297	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=D0009250088_00000	参考動画：あの人に会いたいー安部公房	
37	302	二次元コード		自社ページURL	『のちのおもひに』・『足と心』・『ちがう人間ですよ』 語句の言い換え	別紙50添付
				自社ページURL	『のちのおもひに』・『足と心』・『ちがう人間ですよ』 語句の意味	別紙51添付
38	304	二次元コード		自社ページURL	『のちのおもひに』・『足と心』・『ちがう人間ですよ』 語句の言い換え	別紙50添付
				自社ページURL	『のちのおもひに』・『足と心』・『ちがう人間ですよ』 語句の意味	別紙51添付
39	306	二次元コード		自社ページURL	『のちのおもひに』・『足と心』・『ちがう人間ですよ』 語句の言い換え	別紙50添付
				自社ページURL	『のちのおもひに』・『足と心』・『ちがう人間ですよ』 語句の意味	別紙51添付

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
40	310	二次元コード		自社ページURL	『舞姫』語句の言い換え	別紙52添付
				自社ページURL	『舞姫』語句の意味	別紙53添付
41	350	二次元コード	森鷗外記念館	https://moriogai-kinenkan.jp/	参考リンク：文京区立森鷗外記念館	
42	354	二次元コード		自社ページURL	『もしも、詩があつたら』語句の言い換え	別紙54添付
				自社ページURL	『もしも、詩があつたら』語句の意味	別紙55添付
43	361	二次元コード		自社ページURL	『祈りとしての文学』語句の言い換え	別紙56添付
				自社ページURL	『祈りとしての文学』語句の意味	別紙57添付
44	372	二次元コード		自社ページURL	『バグダッドの靴磨き』語句の言い換え	別紙58添付
				自社ページURL	『バグダッドの靴磨き』語句の意味	別紙59添付
45	387	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=D0009250252_00000	参考動画：あの人に会いたいー米原万里	
46	390	二次元コード		自社ページURL	『夏の花』語句の言い換え	別紙60添付
				自社ページURL	『夏の花』語句の意味	別紙61添付
47	395	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0001530009_00000	参考動画：原爆が投下されたあとの広島市	
48	410	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0009030006_00000	参考動画：ニュース』「第五福竜丸」ビキニで被ばく」	
49	411	二次元コード		自社ページURL	『死んだ男の残したものは』・『わたしが一番きれいだったとき』・『春ーイラクの少女シャミラに』語句の言い換え	別紙62添付
				自社ページURL	『死んだ男の残したものは』・『わたしが一番きれいだったとき』・『春ーイラクの少女シャミラに』語句の意味	別紙63添付
50	413	二次元コード	NHK	https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=D0009072077_00000	参考動画：谷川俊太郎	
51	414	二次元コード		自社ページURL	『死んだ男の残したものは』・『わたしが一番きれいだったとき』・『春ーイラクの少女シャミラに』語句の言い換え	別紙62添付
				自社ページURL	『死んだ男の残したものは』・『わたしが一番きれいだったとき』・『春ーイラクの少女シャミラに』語句の意味	別紙63添付
52	418	二次元コード		自社ページURL	『死んだ男の残したものは』・『わたしが一番きれいだったとき』・『春ーイラクの少女シャミラに』語句の言い換え	別紙62添付
				自社ページURL	『死んだ男の残したものは』・『わたしが一番きれいだったとき』・『春ーイラクの少女シャミラに』語句の意味	別紙63添付
53	422	二次元コード		自社ページURL	『葉桜と魔笛』語句の言い換え	別紙64添付
				自社ページURL	『葉桜と魔笛』語句の意味	別紙65添付
54	434	二次元コード	五所川原市	https://www.city.goshogawara.lg.jp/kyouiku/bunka/syayokan.html	参考リンク：太宰治記念館「斜陽館」	

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
55	436	二次元コード		自社ページURL	『枯野抄』語句の言い換え	別紙66添付
				自社ページURL	『枯野抄』語句の意味	別紙67添付
56	449	二次元コード		自社ページURL	参考資料：夏目漱石から芥川龍之介への手紙	別紙68添付
				自社ページURL	参考動画：芥川龍之介（昭和2年）	別紙69添付

第 I 部

第 II 部

107-207 (書名入る)

著作権について

随想・評論(一) なぜ書くのか

小説(一)

詩・短歌・俳句

小説(二)

随想・評論(二) 芸術との出会い

小説(三)

随想・評論(三) 日本文化の特徴

小説(四)

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。
行き詰まる

〈例文〉 新プロジェクトは人員整備でなっそく行き詰まった。

解答を見る

1問 / 4問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
彼には折々出くわす。

時々

街角で

礼儀正しく

解答

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。
短絡的

〈例文〉 最新機種が最良だと考えるのはあまりに短絡的だ。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
冗談を言ってお茶を濁す。

くだきを巻く

煙に巻く

舌を巻く

解答

1問 / 5問

解答

失望する

熱中する

慣れる

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
ひたすら研究にかける。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
潔しとしない
〈例文〉 仕事を途中で投げ出すことを潔しとしない。

1問 / 5問

解答

ほとんど

まったく

不思議と

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
まるで覚えがない。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
苦学生
〈例文〉 苦学生としてアルバイトと勉学に励む。

1問 / 3問

解答

- 成功の秘訣
 末永い幸福
 永久の別れ

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
 永訣の朝

1問 / 5問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 はるか
 〈例文〉 浅間山をはるかに望む。

1問 / 5問

解答

- 夕焼けで赤く染まった空
 雨がやんだ直後の空
 夏の焼けつくような空

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
 炎天のもとで野球をする。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 悶へる(悶える)
 〈例文〉 激痛に身を悶えて耐える。

1問 / 6問

解答

指先

得意

芸術作品

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
器用な彼にとってDIYはお手のものだ。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
慕う
〈例文〉 大学生の兄を慕って上京し、同居を始める。

1問 / 5問

解答

右往左往

縦横無尽

南船北馬

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
不意の出来事に狼狽する。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
ほの暗い
〈例文〉 ほの暗い地下通路を歩く。

107-207 (書名入る)

『山椒魚』参考動画

著作権について

参考動画：井伏鱒二『山椒魚』自作朗読



0:00 / 1:59

朝日新聞社

107-207 (書名入る) / 第1部 / 小説(二) / 山椒魚 / 『山椒魚』参考動画

© 2020-2025 社名入る

1問 / 5問

解答

腹黒さ

勝負

がまん

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びなさい。
辛抱強い。

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。

盛況

〈例文〉 パーティは大盛況のうちに終わった。

解答を見る

レーウエンフック、ステッドマン、モンティアス解説

◆レーウエンフック (Antonie van Leeuwenhoek)

一六三二—一七二三。オランダの商人・科学者。レーウエンフックはフェルメールと同年にデルフトで生まれた。二人ともデルフトの新教会で洗礼を受けた記録が残っている。一六七五年にフェルメールが亡くなると、残された家族が自己破産を宣言したため、レーウエンフックはデルフト市から遺産の管理人を任された。フェルメールとレーウエンフックとのつながりを事実として証明しているのは、この二点である。

レーウエンフックは、十六歳から六年間、アムステルダム織物商に奉公したのち、デルフトに戻って織物商人として独り立ちした。フェルメールの父が絹織物職人であったことや、レーウエンフックが購入した家がフェルメールの家族が所有していた家の近所であったことから、フェルメールと面識があった可能性が指摘されている。

レーウエンフックは、当時の世界で最高倍率の革新的なレンズを作ったことで知られている。自作の単眼式顕微鏡を用いて原生生物やバクテリアなどを世界で初めて観察・記録し、論文ではなく手紙の形式でイギリス王立協会に送り続けた結果、協会に認められ、のちに「微生物学の父」と呼ばれるようになった。レーウエンフックが顕微鏡用に作成したレンズは、カメラ・オブスクーラ用のレンズとして使えるものではなかったと想像される。フェルメールの『地理学者』と『天文学者』に描かれている人物のモデルはレーウエンフックであると推測する芸術史家もいる。

◆ステッドマン (Philip Steadman)

一九四二—。イギリスの建築学者。ステッドマンは都市計画や環境設計を専門にするかたわら、一九七〇年代末からフェルメールの絵の空間について研究を始めた。著作に『フェルメールのカメラ (Vermeer's Camera)』がある。

室内の様子が描かれている一点のフェルメール作品について、タイルや壁に描かれた地図や絵の大きさを手掛かりとして、実際の部屋の空間がどのようなものであったか再構成を試みた。建築家でもあったステッドマンは、六分の一のミニチュアを用いて実際の部屋を再現した。部屋を撮影した写真と、もとの絵を比較したところ、光の加減や鏡に写った像までそっくりだった。

このことからステッドマンは、フェルメールがカメラ・オブスクーラを使って室内風景を壁面に投影し、それに基づいて絵を描いたと主張している。



◆モンティアス (John Michael Montias)

一九二八―二〇〇五。アメリカの経済史学者。オランダの黄金時代の経済史について研究する中、デルフトで聖ルカ組合について調査を始めた。初めはフェルメールにとくに注目していたわけではなかった。聖ルカ組合とそのメンバーについての史料を読み解くうちに、フェルメールについての資料で、いまだ調査されていない文献、情報があることに気づいた。

フェルメールの父親が宿屋を営んだり画商を営んでいたことを発見し、デルフトだけでなくデン・ハーグでも、文書館に残るフェルメール関連の古文書を探し始めた。調査を進めるうちに、財産目録、遺言書、訴訟や金銭貸借など、フェルメールの家族や周辺人物に関わる重要史料を次々に発見した。大きな功績の一つに、フェルメールのパトロンの可能性がある、ピーテル・ファン・ライフェンという醸造業者の存在を突き止めたことがある。

モンティアスの調査と社会経済史的アプローチによって、十七世紀デルフトの芸術家たちの生態だけではなく日常生活も明らかになり、その後のフェルメール研究は大いに進展した。彼の著作、『フェルメールと彼の環境 (Vermeer and His Milieu)』がフェルメール研究の必読の基礎的文献である。

1問 / 5問

解答

- たまたま
- 毎度
- 時々

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びよう。
 事あるごとに文句を言う。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 めづめ(めづめる)
 〈例文〉 四季折々の自然をめぐりる風流な心。

1問 / 5問

解答

- 不安そう
- 元気がない
- ききまわし

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びよう。
 悄然とした口調で言う。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 平生
 〈例文〉 今日の彼は平生とは様子が異なる。

Kはあまり旅へ出ない男でした。私にも房州は初めてでした。二人はなんにも知らないで、船が一番先へ着いた所から上陸したのです。たしか保田とか言いました。今ではどんなに変わっているか知りませんが、そのころはひどい漁村でした。第一どこもかしこも生臭いのです。それから海へ入ると、波に押し倒されて、すぐ手だの足だのを擦りむくのです。拳のような大きな石が打ち寄せる波にもまれて、始終ごろごろしているのです。

私はすぐ嫌になりました。しかしKはいいとも悪いとも言いません。少なくとも顔つきだけは平気なものでした。そのくせ彼は海へ入るたんびにどこかにけがをしないことはなかったのです。私はとうとう彼を説き伏せて、そこから富浦に行きました。富浦からまた那古に移りました。すべてこの沿岸はその時分から主に学生の集まる所でしたから、どこでも我々にはちょうど手ごろの海水浴場だったのです。Kと私はよく海岸の岩の上に座って、遠い海の色や、近い水の底を眺めました。岩の上から見下ろす水は、また特別にきれいなものでした。赤い色だの藍の色だの、普通市場に上らないような色をした小魚が、透き通る波の中をあちらこちらと泳いでいるのが鮮やかに指さされました。

私はそこに座って、よく書物を広げました。Kは何もせずに黙っているほうが多かったのです。私にはそれが考えにふけているのか、景色に見とれているのか、もしくは好きな想像を描いているのか、全くわからなかったのです。私は時々目を上げて、Kに何をしているのだとききました。Kは何もしていないと一口答えるだけでした。私は自分のそばにこうじつとして座っている者が、Kでなくって、お嬢さんだったらさぞ愉快だろうと思うことがよくありました。それだけならまだいいのですが、時にはKのほうでも私と同じような希望を抱いて岩の上に座っているのではないかしらと忽然疑い出すのです。すると落ち着いてそこに書物を広げているのが急に嫌になります。私は不意に立ち上がります。そうして遠慮のない大きな声を出してどなります。まとまった詩だの歌だのをおもしろそうに吟ずるような手ぬるいことはできないのです。ただ野蛮人のごとくにわめくのです。あるとき私は突然彼の襟首を後ろからぐいとつかみました。こうして海の中へ突き落としたらどうすると言ってKに聞きました。Kは動きませんでした。後ろ向きのまま、ちょうどいい、やってくれと答えました。私はすぐ首筋を抑えた手を放しました。

Kの神経衰弱はこのときもうだいぶよくなっていたらしいのです。それと反比例に、私のほうはだんだん過敏になってきていたのです。私は自分より落ち着いているKを見て、羨ましがりました。また憎らしがりました。彼はどうしても私に取り合う気色を見せなかったからです。私にはそれが一種の自信のごとく映りました。しかしその自信を



彼に認めたところで、私は決して満足できなかったのです。私の疑いはもう一歩前へ



て、その性質を明らかにしました。彼は学問なり事業なりについて、これから自分の進んでゆくべき前途の光明を再び取り返した心持ちになったのだらうか。単にそれだけならば、Kと私との利害になんの衝突の起るわけはないのです。私はかえって世話のしがいがあったのをうれしく思うくらいなものです。けれども彼の安心がもしお嬢さんに対してであるとすれば、私は決して彼を許すことができなくなるのです。不思議にも彼は私のお嬢さんを愛している素振りに全く気がついていないように見えました。むろん私もそれがKの目につくようにわざとらしくは振る舞いませんでしたけれども。Kは元来そういう点にかけて鈍い人なのです。私には最初からKなら大丈夫という安心があったので、彼をわざわざうちへ連れてきたのです。

二十九

私は思い切って自分の心をKに打ち明けようと思いました。もっともこれはそのときに始まったわけでもなかったのです。旅に出ない前から、私にはそうした腹ができていたのですけれども、打ち明ける機会をつらまえることも、その機会を作り出すことも、私の手際ではうまくゆかなかったのです。今から思うと、そのころ私の周囲にいた人間はみんな妙でした。女に関して立ち入った話などをする者は一人もありませんでした。中には話す種を持たないものもだいたいでしょすが、たとい持っていたても黙っているのが普通のようなでした。比較的自由な空気を呼吸している今のあなた方から見たら、定めし変に思われるでしょう。それが道学の余習なのか、または一種のはにかみなのか、判断はあなたの理解に任せておきます。

Kと私はなんでも話し合える仲でした。たまには愛とか恋とかいう問題も、口の上らないではありませんでしたが、いつでも抽象的な理論に落ちてしまうだけでした。それもめったには話題にならなかつたのです。たいていは書物の話と学問の話と、未来の事業と、抱負と、修養の話ぐらいで持ち切っていたのです。いくら親しくつてもこう堅くなつた日には、突然調子を崩せるものではありません。二人はただ堅いなりに親しくなるだけです。私はお嬢さんのことをKに打ち明けようと思ひ立ってから、何遍歯がゆい不快に悩まされたかしれません。私はKの頭のどこか一箇所を突き破って、そこから柔らかない空気を吹き込んでやりたい気がしました。

あなた方から見ると笑止千万なことそのときの私には実際大困難だったのです。私は旅先でもうちにいたときと同じように卑怯ひきょうでした。私は始終機会を捕らえる気でKを観察していながら、変に高踏的な彼の態度をどうすることもできなかったのです。私に言わせると、彼の心臓の周囲は黒い漆で重く塗り固められたのも同然でした。私の注ぎかけようとする血潮は、一滴もその心臓の中へは入らないで、ことごとく弾き返されてしまふのです。

あるときはあまりにKの様子が強くて高いので、私はかえって安心したこともあります。そうして自分の疑いを腹の中で後悔するとともに、同じ腹の中で、Kに託たくびました。託びながら自分が非常に下等な人間のように見えて、急に嫌な心持ちになるので



す。しかし、しばらくすると、以前の疑いがまた逆戻りをして、強く打ち返してきます。すべてが疑いから割り出されるのですから、すべてが私には不利益でした。容貌もKのほうが女に好かれるように見えました。性質も私のようにこせこせしていないところが、異性には気に入るだろうと思われました。どこか間が抜けていて、それでどこかにしつかりした男らしいところのある点も、私よりは優勢に見えました。学力になれば専門こそ違いますが、私はむろんKの敵でないと自覚していました。――すべて向こうのいいところだけがこう一度に目先へちらつき出すと、ちょっと安心した私はすぐ元の不安に立ち返るのです。

Kは落ち着かない私の様子を見て、嫌ならひとまず東京へ帰ってもいいと言ったのですが、そう言われると、私は急に帰りたくなりませんでした。実はKを東京へ帰したくなかったのかもしれませんが、二人は房州の鼻を回って向こう側へ出ました。我々は暑い日に射られながら、苦しい思いをして、上総かづさのそこ一里にだまされながら、うんうん歩きました。私にはそうして歩いている意味がまるでわからなかつたくらいです。私は冗談半分にKにそう言いました。するとKは足があるから歩くのだと答えました。そうして暑くなると、海に入っていこうと言って、どこでもかまわず潮へ漬かりました。その後をまた強い日で照りつけられるのですから、身体がだるくてぐたぐたになりました。

三十

こんなふうにして歩いていると、暑さと疲労とで自然体の調子が狂ってくるものです。もっとも病気とは違います。急に人の体の中へ、自分の靈魂が宿替えをしたような気分になるのです。私は平生のとおりKと口をききながら、どこかで平生の心持ちと離れるようになりました。彼に対する親しみも憎しみも、旅中限りという特別な性質を帯びるふうになったのです。つまり二人は暑さのため、潮のため、また歩行のため、在来と異なった新しい関係に入ることができたのでしょう。そのときの我々はあたかも道連れになった行商のようなものでした。いくら話をしていとも違って、頭を使うこみ入った問題には触れませんでした。

我々はこの調子でとうとう銚子ちやうしまで行ったのですが、道中たった一つの例外があったのを今に忘れることができないのです。まだ房州を離れない前、二人は小湊こみなとという所で、鯛たいての浦を見物しました。もう年数もよほどたっていますし、それに私にはそれほど興味のないことですから、判然とは覚えていませんが、なんでもそこは日蓮にちれんの生まれた村だとかいう話でした。日蓮の生まれた日に、鯛が二尾磯びいそに打ち上げられていたとかいう言い伝えになっているのです。それ以来村の漁師が鯛をとることを遠慮して今に至ったのだから、浦には鯛がたくさんいるのです。我々は小舟を雇って、その鯛をわざわざ見に出かけたのです。

そのとき私はただいちずに波を見ていました。そうしてその波の中に動く少し紫があった鯛の色を、おもしろい現象の一つとして飽かず眺めました。しかしKは私ほどそれに興味を持ち得なかつたものとみえます。彼は鯛よりもかえって日蓮のほうを頭の中で想像していたらしいのです。ちょうどそこに誕生寺たんにんじという寺がありました。日蓮の生ま



れた村だから誕生寺とでも名をつけたものでしょう、立派な伽藍がらんでした。Kはその寺で行って住持に会ってみると言い出しました。実をいうと、我々はずいぶん変な服装なりをしていたのです。ことにKは風のために帽子を海に吹き飛ばされた結果、菅笠すががさを買ってかぶっていました。着物はもとより双方とも垢あかじみたうえに汗で臭くなっていました。私は坊さんなどに会うのはよそうと言いました。Kは強情だから聞きません。嫌なら私だけ外に待っているというのです。私はしかたがないからいっしょに玄関にかかりましたが、心のうちではきっと断られるにちがいないと思っていました。ところが坊さんというものは案外丁寧なもので、広い立派な座敷へ私たちを通して、すぐ会ってくれました。その時分の私はKとだいぶ考えが違っていましたから、坊さんとKの談話にそれほど耳を傾ける気も起こりませんでした。Kはしきりに日蓮のことをきいていたようです。日蓮は草日蓮くさにちんと言われるくらいで、草書が大変上手であったと坊さんが言ったとき、字のまずいKは、なんだからないという顔をしたのを私はまだ覚えています。Kはそんなことよりも、もっと深い意味の日蓮が知りたかったのでしょう。坊さんがその点でKを満足させたかどうかは疑問ですが、彼は寺の境内を出ると、しきりに私に向かつて日蓮のことをうんぬんし出しました。私は暑くてくたびれて、それどころではありませんでしたから、ただ口の前でいい加減な挨拶をしていました。それも面倒になってしまいいには全く黙ってしまったのです。

たしかその明くる晩のことだと思えますが、二人は宿へ着いて飯を食って、もう寝ようという少し前になってから、急に難しい問題を論じ合いました。Kはきのう自分のほうから話しかけた日蓮のことについて、私を取り合わなかったのを、快く思っていなかったのです。精神的に向上心のないものはばかだと言って、なんだか私をさも軽薄もののようにやり込めるのです。ところが私の胸にはお嬢さんのことがわだかまっていますから、彼の侮蔑ぶべつに近い言葉をただ笑って受け取るわけにいきません。私は私で弁解を始めたのです。

三十一

そのとき私はしきりに人間らしいという言葉を使いました。Kはこの人間らしいという言葉のうちに、私が自分の弱点のすべてを隠していると言うのです。なるほど後から考えれば、Kの言うとおりでした。しかし人間らしくない意味をKに納得させるためにその言葉を使い出した私には、出发点がすでに反抗的でしたから、それを反省するような余裕はありません。私はなおのこと自説を主張しました。するとKが彼のどこをたらまえて人間らしくないのかと私にきくのです。私は彼に告げました。――君は人間らしいのだ。あるいは人間らしすぎるかもしれないのだ。けれども口の前だけでは人間らしくないようなことを言うのだ。また人間らしくないように振る舞おうとするのだ。

私がこう言ったとき、彼はただ自分の修養が足りないから、人にはそう見えるかもしれないと答えただけで、いっこう私を反駁はんぱくしようとしませんでした。私は張り合いが抜けたというよりも、かえって気の毒になりました。私はすぐ議論をそこで切り上げました。彼の調子もだんだん沈んできました。もし私が彼の知っているとおり昔の人を知る

ならば、そんな攻撃はしないだろうと言って恨然うらやまとしていました。Kの口にした昔の

とは、むろん英雄でもなければ豪傑でもないのです。霊のために肉をしいたげたり、道のために体をむち打ったりしたいわゆる難行苦行の人をさすのです。Kは私に、彼がどのくらいそのために苦しんでいるかわからないのが、いかにも残念だと明言しました。

Kと私とはそれぎり寝てしまいました。そうしてその明くる日からまた普通の行商の態度に返って、うんうん汗を流しながら歩き出したのです。しかし私は道々その晩のことをひょいひょいと思ひ出しました。私にはこのうえもないいい機会が与えられたのに、知らない振りをしてなぜそれをやり過ぎたのだろうという悔恨の念が燃えたのです。私は人間らしいという抽象的な言葉を用いる代わりに、もっと直截ちやくせつで簡単な話をKに打ち明けてしまえばよかったと思ひ出したのです。実をいうと、私がそんな言葉を創造したのも、お嬢さんに対する私の感情が土台になっていたので、事実を蒸留してこしらえた理論などをKの耳に吹き込むよりも、原もとの形そのままを彼の目の前に露出したほうが、私にはたしかに利益だったでしょう。私にそれができなかったのは、学問の交際が基調を構成している二人の親しみに、おのずから一種の惰性があったため、思いついてそれを突き破るだけの勇気が私に欠けていたのだということをごに告白します。気取りすぎたと言っても、虚栄心がたつたと言っても同じですが、私の言う気取るとか虚栄とかいう意味は、普通のこととは少し違います。それがあなたに通じさえすれば、私は満足なのです。

我々は真つ黒になって東京へ帰りました。帰ったときは私の気分がまた変わっていました。人間らしいとか、人間らしくないとかいう小理屈はほとんど頭の中に残っていませんでした。Kにも宗教家らしい様子が全く見えなくなりました。おそらく彼の心のどこにも霊がどうの肉がどうのという問題は、そのとき宿っていなかったでしょう。二人は異人種のような顔をして、忙しそうに見える東京をぐるぐる眺めました。それから両国へ来て、暑いのに軍鶏しんけいを食いました。Kはその勢いで小石川まで歩いて帰ろうと言うのです。体力からいえばKよりも私のほうが強いのですから、私はすぐ応じました。

うちへ着いたとき、奥さんは二人の姿を見て驚きました。二人はただ色が黒くなったばかりでなく、むやみに歩いていたらうちに大変瘦せてしまったのです。奥さんはそれでも丈夫そうになったと言ってほめてくれるのです。お嬢さんは奥さんの矛盾がおかしいと言ってまた笑い出しました。旅行前時々腹の立った私も、そのときだけは愉快な心持ちがしました。場合が場合なのと、久し振りに聞いたせいでしよう。

*採録にあたっては、教科書に準じて表記を改めています。

1問 / 7問

解答

褒める

眺める

賞美する

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
季節の花々を愛でる。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
車座
〈例文〉 プロジェクトについて、車座になって意見を出し合う。

1問 / 4問

解答

清掃

準備

支払い

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
しつらえが済んだ式場。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
巧妙
〈例文〉 闇バイトの担い手を募る巧妙な手口。

1問 / 5問

解答

無常 無窮 無為

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
 悠久の時間。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 口走る
 〈例文〉 寝ぼけていたので余計なことまで口走る。

1問 / 6問

解答

ライバル 配偶者 悪友

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
 友人のつれあい。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 寡黙
 〈例文〉 寡黙で自己主張を内に秘める。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 あらかじめ
 〈例文〉 旅先の情報をあらかじめ調べておく。

1問 / 5問

解答

- 大急ぎで
 かいつままで
 すべて

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選び、洗いなぎいししゃべった。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 間に合わせる
 〈例文〉 今夜はロビーに弁当を間に合わせます。

1問 / 4問

解答

- 意味
 内容
 働き

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選び、使用場面()の言語の機能。

1問 / 3問

解答

- 前代未聞
- 前後不覚
- 一切皆空

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
空前絶後の大事件。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
召喚
〈例文〉 ジョン万次郎は江戸幕府に召喚された。

1問 / 5問

解答

- 友愛
- 平等
- 自由

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。
権力をほしいままにする。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
いたたまれない
〈例文〉 大事な試合でミスをして、いたたまれない気持ちになる。

本質的な文学者

萩原朔太郎



日本の文学に対して、僕は常にある満たされない不満を持っていた。それは僕の観念する「文学」が、日本の現存している文学とどこか本質において食い違っており、別種に属していたからである。しかるに梶井君の作品集『檸檬』を読み、はじめて僕は、日本における「文学」の实在観念を発見した。もちろん『檸檬』の作品は、小説というべきよりは、小品もしくは散文詩の範疇に属すべきものであるかもしれない。しかしながらこの精神は、すべての文学を通じて普遍さるべき、絶対根本のものであり、僕の常に観念している「文学」の正観と1符節している。僕は考える。文学の条件すべき要素は、単なる理知でもなく、観照でもなく、またもとより、単なる感覚や趣味でもない。文学の真の本質は、生への動物的な烈しい衝動（意志）に発足しており、かつその意志が、対象に向かって切り込むところの、本質の比較解剖学的抽出でなければならぬ。すなわち2ゲートの言うごとく、すべての文学者は、素質の詩人と素質の哲学者とを、性格において要素している人物でなければならぬ。そしてしかも、日本にはこうした文学者が少ないのである。

梶井基次郎君は、日本の現文壇においては、まれに見る真の本質的な文学者であった。彼は最も烈しい衝動によって創作するところの、真の情熱的詩人であって、しかもまた同時に、最も冷酷無情の目を持ったニヒリスチックの哲学者だった。彼は肉食獣の食欲で生活しつつ、一角獣の目をもって世界を見ていた。彼の病んで蝕んだ肉体は、常にその意志の烈しい衝動によって悩まされていた。そしてそこに、彼の作品の恐ろしい「歪力」が感じられる。彼の見た世界は狭い。しかしながら底が深く、測量の重い錘が、岩礁にまでずっと届いているのである。あらゆる知恵は明徹している。しかしながら単純でなく、海底の藻草のように、章魚の吸盤のある足ののように、意地悪くからみながら、内臓で呼吸しているのである。梶井君は夭折した。おそらく彼はその当然なすべき仕事の十分の一も果たさなかつたろう。にもかかわらず彼は真の本質的な「文学」を書いたところの、真の本質的な文学者であった。

× × × ×

近ごろになって、梶井君の夭折がまたつくづく惜しまれる。梶井君がもし大成したら、晩年には³ドストイェフスキイのような作家になつたかかもしれない。あるいはまた⁴ポオのような詩人的作家になつたかもしれない。どっちに行ってもたいへんなものである。梶井君とはわずかの交際だが、その人物にもいろいろな複雑な多面性があり、ちょっと得体がわからず気味の悪いような男であった。⁵尾崎士郎氏は、そのある小説の中で、梶井君のことを「古狸」と書いているが、たしかに食えないような所があり、油断できない感じがした。一見トボケているようであって、実は何もかも鋭く見ぬいているのである。その性格にはドストイェフスキイのような破倫性と病理学的憂鬱症とがあり、また一面ポオのような詩的浪漫性と聡明とがあった。そしていちばん本質している人間の素質は、宗教的にさえも近いところの純情性であった。

梶井君のような男は、友人としてはちょっとやりきれない男である。やりきれないというのは、こっちが神経的に疲れてしまうのである。ドストイェフスキや⁶ボードレエルは、多くの友人から鼻つまみにされたという話だが、いったい芸術の天才というやつは、東西古今を通じて人づきあいが悪く、厄介な持てあましものである。ただ梶井君が、一人の⁷三好達治君を親友に持っていたことは、同君のために生涯の幸福だった。梶井君と三好君との交際は、側で見てさえうらやましいほど親密で、しかも涙ぐましいほどに純情だった。僕の見たところでは、梶井君は三好君に対してのみ、一切の純情性を捧^{さか}げて、娘が母に対するように甘^{あま}たれていた。おそらくあの不幸な孤独の男は、一人の三好君にのみ、魂の秘密な隠れ家を見つけたのであろう。

（梶井基次郎『檸檬・城のある町にて』角川文庫 一九九五）

＊初出は『評論』（一九三五年九月）

＊採録にあたっては、教科書に準じて表記を改めています。

【語注】

1 符節、割り符。ここでは、割り符が合うようにぴったりと合っていること。

2 ゲーテ Johann Wolfgang von Goethe（一七四九―一八三二）。ドイツの詩人・劇作家・小説家。

3 ドストエフスキイ Fyodor Mikhailovich Dostoevskii（一八二一―一八八二）。ロシアの小説家。

4 ポオ Edgar Allan Poe（一八〇九―一八四九）。アメリカの詩人・小説家・ジャーナリスト。

5 尾崎士郎 一八九八―一九六四。小説家。

6 ボードレエル Charles Baudelaire（一八二一―一八六七）。フランスの詩人・評論家。

7 三好達治 一九〇〇―一九六四。詩人。

1問 / 4問

解答

- 厳密に量って
- 目で見た分量で
- 目の大きさ程度で

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
砂糖は目分量で。

1問 / 8問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
挙動不審
〈例文〉 挙動不審な男の目撃情報が寄せられている。

1問 / 5問

解答

- ふくよかな
- 穏やかな
- 派手な

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。
恰幅はかばかのよい亭主。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
殺人的
〈例文〉 殺人的スケアジュールをこなす。

1問 / 5問

解答

- 気がとがめる
- 薄情な
- 陰気な

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選び、後ろめたい思い。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 墜落
 〈例文〉 飛行機が海に墜落する。

1問 / 5問

解答

- 中腹
- 下方
- 頂上

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選び、山の麓。

1問 / 8問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 風が立つ
 〈例文〉 どこからともなく風が立った。

1問 / 5問

解答

失言 甘言 格言

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選び、責任者の放言。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
くがましい
〈例文〉 押しつけがましい文章を書かない。

1問 / 5問

解答

新しい世界 空と大地 転機

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選び、新天地に到達する。

1問 / 8問

解答を見る

挑む
次の表現の意味を答えよう。
〈例文〉 解決困難な事案に挑む。

1問 / 5問

解答

- 必要性
- 時間
- きっかけ

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択し、
 平和について考える契機。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 勃発
 〈例文〉 海の方こうでまた戦争が勃発した。

1問 / 5問

解答

- 通帯
- 当面
- 今後

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択し、
 差し当たり間に合う。

1問 / 5問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 転がり込む
 〈例文〉 自宅を火事で失い、兄の家に転がり込んだ。

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択せよ。
 そうだったがねと、うざあをく。

解答

豪語する

嘘を言う

とはげめる

1問 / 8問

次の表現の意味を答えよ。
 炎天
 〈例文〉 炎天下の運動は危険だ。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択せよ。
 かたくなな心。

解答

閉ざされた

頑固な

用心深い

1問 / 8問

次の表現の意味を答えよ。
 とんでもない
 〈例文〉 とんでもないうわき話だ。

解答を見る

1問 / 6問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
母が他界する。

解答

- 亡くなる
- 離縁する
- 行方不明になる

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。
うとく
〈例文〉 政治がうとくで、正直よくわかるな。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
肩をさげてくる。

解答

- 上げる
- 下げる
- ほくす

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。
介抱
〈例文〉 けが人を介抱する。

解答を見る

夏目漱石から芥川龍之介宛の書簡



二月十九日（土） 消印午前十一十二時

府下田端四三五 芥川龍之介様

二月十九日 牛込早稲田南町七 夏目金之助

拝啓 新思潮のあなたのものと久米君のものと成瀬君のものを読んでみました。あなたのものはたいへんおもしろいと思います。落ち着きがあつてふざけていなくて自然そのままのおかしみがおつとり出ている所に上品な趣があります、それから材料が非常に新しいのが目につきます。文章が要領を得てよく整っています。敬服しました。ああいうものをこれから二、三十並べてごらん下さい。文壇で類のない作家になれます。しかし『鼻』だけではおそらく多数の人の目に触れないでしょう。触れてもみんなが黙過するでしょう。そんな事に頓着しないでずんずんお進みなさい。群衆は眼中に置かない方が身体の葉です。

久米君のも面白かった。ことに事実という話を聴いていたからなおのこと興味がありました。しかし書き方やその他の点になるとあなたの方が申し分なくいっていると思います。成瀬君のものは失礼ながら三人の中で一番劣ります。これは当人も巻末で自白しているから蛇足ですが感じた通りをそのままつけ加へておきます。以上

二月十九日

夏目金之助

芥川龍之介様

＊採録にあたっては、教科書に準じて表記を改めています。

『枯野抄』文学のしるべ 参考動画

参考動画：芥川龍之介（昭和2年）

生前の芥川龍之介の姿を取めた映画「現代日本文学巡礼」。芥川と親交のあった久米正雄が作品の監督を務めている。



動画提供：郡山市こおりやま文学の森資料館

[107-207 \(書名入る\)](#) / [第Ⅱ部](#) / [小説\(四\)](#) / [枯野抄](#) / 『枯野抄』文学のしるべ 参考動画